

平成22年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

老健利用者の状態像の変化と、医療提供のあり方に関する調査研究事業報告書

平成23年3月

社団法人 全国老人保健施設協会

はじめに

介護老人保健施設は、今から 20 年前に新しい発想で創設されて以来、わが国における社会保障制度の「実験場的なチャレンジ」を行うとともに、「包括的ケアサービス施設」「リハビリテーション施設」「在宅復帰施設」「在宅生活支援施設」「地域に根ざした施設」という 5 つの基本理念をしっかりと守りながら活動を進めてきた。

平成 12 年 4 月には、介護保険制度がスタートして、要介護状態となっても尊厳を保持し、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービスの給付を行う体制が構築された。介護老人保健施設も今日では、3,300 を超える施設が全国で存在しており、介護保険制度を支える中核的な存在として日々サービスの提供に努めている。

振り返れば、介護老人保健施設は出発点から、「多様なニーズに対して、多機能な専門職がサービスを提供する施設」であり、その時々々の要介護者および高齢者全体のニーズや課題に対応して、活動内容の幅を広げてきている。加齢と密接に結びついている認知症の対応や、地域の医療機関等との協力・連携をはじめ、口腔ケアの問題、多様で個別性の高い要介護高齢者の統一的なケアマネジメントを行うシステムの構築など、介護老人保健施設に期待される役割は、年々大きなものとなりつつある。

そうした中であって、21 世紀の介護老人保健施設のあり方を検討するためには、単に憶測や思いつきで議論するのではなく、客観的かつ公正なデータ・冷静な観察に基づいて論理を構築して、活動の羅針盤を築いていくことが必要である。その前提として、その時々々の適切な研究課題を設定して、調査研究を積み重ねていくことが必要不可欠であると考えられる。

全老健では平成 22 年度老人保健推進費等国庫補助事業において次の 5 つの研究事業に取り組んだ。ここに、各研究事業の報告書(5冊分)をとりまとめたので報告する。

- 1 認知症短期集中リハビリテーション提供後の継続的な認知リハビリテーションの効果に関する調査研究事業
- 2 介護老人保健施設における効果的なケアマネジメント方式のあり方とその効果に関する調査研究事業
- 3 老健利用者の状態像の変化と、医療提供のあり方に関する調査研究事業
- 4 医療・介護関係職種の連携(地域医療連携)強化のための介護老人保健施設の役割に関する調査研究事業
- 5 介護保険施設における適切な口腔機能維持および口腔機能向上に関する調査研究事業

これらの研究成果が、介護老人保健施設の関係者のみならず、高齢者の生活を支える全ての方々の取り組みの参考となり、高齢者の尊厳の保持と質の高いサービスの提供につながることを願うものである。

平成 23 年 3 月
社団法人全国介護老人保健施設協会 会長 川合 秀治

－ 目 次 －

はじめに

I. 調査研究事業の概要	1
1. 調査研究事業の目的	1
2. 調査研究事業の概要	1
3. 研究班名簿	3
II. 調査結果の全体	4
1. 調査の概要	4
(1) 調査の設計について	4
(2) 参加の状況に関する調査項目について	7
(3) 診断名に関する調査項目について	8
(4) 調査実施要領	8
(5) 回収状況(過去3回の回収状況の整理)	9
2. 調査結果	10
(1) 調査者のプロフィール	10
① 職種	10
② 職種の経験年数	10
③ 介護支援専門員資格の有無	10
④ 要介護認定調査の経験の有無	10
(2) 調査対象者のプロフィール	11
① 性別	11
② 年齢	11
③ 要介護度	12
④ 障害高齢者の日常生活自立度	13
⑤ 認知症高齢者の日常生活自立度	14
⑥ 短期集中リハビリテーションの実施(ADL)	15
⑦ 認知症短期集中リハビリテーションの実施	15
(3) 調査対象者の調査実施期間における変化	16
① 疾患の発症・悪化の有無	16
② 身体にかかわる変化	17
(4) 調査対象者の医療度	18
(5) 調査対象者の治療行為にかかる手間のかかり度	19
(6) 調査対象者の基礎疾患等の状況	20
① 調査対象者の診断名	20
② その他特記すべき状態	31
(7) 調査対象者の歩行・移動のスケール	32
① 基本動作レベル	32

②歩行・移動レベル	34
③移動手段	36
(8) 調査対象者の認知機能スケール	37
①認知機能～オリエンテーション(見当識)のレベル	37
②認知機能～コミュニケーションのレベル	39
③認知機能～精神活動のレベル	41
④周辺症状	43
(9) 調査対象者の食事のスケール	45
①食事～嚥下機能のレベル	45
②食事～食事動作および食事介助のレベル	47
③食事の形態・性状	49
(10) 調査対象者の排泄のスケール	50
①排泄の動作のレベル	50
②補助具・器具の使用状況と尿意	52
(11) 調査対象者の入浴のスケール	53
①入浴動作のレベル	53
②入浴手段	55
(12) 調査対象者の整容のスケール	56
①整容～口腔ケアのレベル	56
②整容～整容のレベル	58
③整容～衣服の着脱のレベル	60
(13) 調査対象者の参加の状況	62
①余暇活動	62
②社会活動	63
③交流	64
Ⅲ. 老人保健施設における標準的診断名リストの作成	65
Ⅳ. 老健利用者の状態像の変化にかかわる因子の分析と考察	72
1. 分析の概要	72
(1) ロジスティック回帰分析の援用	72
(2) 目的変数の設定	72
① 基本動作にかかる状態像の変化	72
② 歩行・移動にかかる状態像の変化	73
③ 認知機能～オリエンテーションレベルにかかる状態像の変化	73
④ 認知機能～精神活動にかかる状態像の変化	74
(3) 目的変数の性別及び平均年齢	74
(4) 分析に用いた説明変数	76

2. 分析結果	77
(1) 基本動作にかかる状態像の変化	77
(2) 歩行・移動にかかる状態像の変化	80
(3) 認知機能～オリエンテーションレベルにかかる状態像の変化	82
(4) 認知機能～精神活動レベルにかかる状態像の変化	84
IV. 結果のまとめ	87
1. 介護老人保健施設における診断名リストの作成	87
2. ロジスティック回帰分析による悪化、あるいは維持改善につながった群の検討	87
資料編	93

I. 調査研究事業の概要

1. 調査研究事業の目的

来るべき超高齢社会に向け、適正な財源配分を維持しながら介護サービスの質を高めるためには、利用者の個別特性を示す透明性の高いデータが集積されるとともに、状態の時系列的変化に即応できる的確な地域政策が実施されることが求められる。

これまで、平成19年度から平成21年度事業において、簡便で精度の高い評価指標の構築に向けて、実証調査と検証作業を繰り返しながら、指標に最適な項目の精査を進めてきたところである。

また、平成20年度「ICFを用いた認知症状態像判定指標の開発に関する調査研究事業班」では施設・在宅のいずれにも活用できる、わかりやすい「認知症状態像判定指標」を作成したほか、平成21年度「介護老人保健施設入所利用者の基礎疾患や合併症等に対する医療の調査研究事業」においては、老健施設利用者の医療・介護・リハビリの状況に基づくケースミックス区分法の作成を試み、利用者へのより適切な医療資源配分の仕組みを構築するための試行を行ってきた。

これらの研究事業の成果を元に、本年度事業では現場での活用を踏まえた指標の精度向上と実用性の向上を進めるとともに、高齢者の不測の事態に対する適正な医療資源配分のあり方、老健施設に求められる真の役割・機能、さらに社会保障制度調整の方向性を示すデータの収集・分析を行なうことを目的とした調査研究を行った。

とくに本年度は、介護老人保健施設の医療指標の精度の改善を目的に、介護老人保健施設で用いることが容易な診断群リストを国際疾病分類をもとに作成した。さらに高齢者のリスクについて3年間のコホートを用いて、日常生活動作悪化に関するリスクファクターについて検討した。

2. 調査研究事業の概要

昨年度までに作成をすすめてきた基本的な状態像区分の指標は、多様な状態像をもつ要介護高齢者の身体・精神面の状態像と、疾患等に伴う状態変化を簡単かつ的確に評価しコーディングする手法について、現場での活用を踏まえた指標の精度と実用性の向上を進めた。

また、これまでに蓄積されてきたデータを詳細に分析することにより、状態像の悪化、改善を予測する指標等を検討するとともに、介護老人保健施設利用者の実態に即した疾患群区分と利用ニーズ分類の作成を試みることにより、高齢者の不測の事態に対する適正な医療資源配分のあり方、老健施設に求められる真の役割・機能、さらに社会保障制度調整の方向性を示すデータを収集・分析を行なった。

さらに、急性期や地域連携パスとの情報共有を視野に、疾患と障害の関係等についても分析を行なった。

検証調査では、抽出した全国の介護老人保健施設（以下、老健施設）に対し、一昨年度調査以来調査対象となった約 7,000 名を対象に、初回調査から約 20 ヶ月後、前回調査から約 10 ヶ月後の利用者の変化の状況について、今回作成した調査票を使用し、再調査を行なった。

今回作成された国際生活機能分類に基づいた日常生活動作の指標は、介護老人保健施設の新しいケアマネジメント手法である R4 システムに導入された。さらに今回の研究においてはこれらの指標を用いて、日常生活動作悪化に関係した因子を検討し、同定することで、介護サービスと急性期医療等の指標との“つなぎ目のない連動”の際の補助情報として活用されることが期待される。

また、サービス利用者側の理解が得られやすい指標として、利用者のニーズに即応した効果的サービスの提供等に資するツール、さらには利用者の立場で介護サービスのケアの質を客観的に評価するための指標として、適切なサービス計画の策定に活用されることで、限られた社会保障財源の適正かつ効率的な配分に資することが期待される。

同時に、老健施設入所利用者をはじめとする高齢者の不測の事態（新たな重大疾患の発症や急性増悪、施設死亡等）に対する適正な医療資源配分のあり方、老健施設に求められる真の役割・機能、さらに社会保障制度調整の方向性を示す貴重なデータを示すことができると考える。

さらに、介護老人保健施設における診断名リストは、以下のような使い方が考えられる。

1. 介護老人保健施設における医療の質の向上
2. 介護老人保健施設の診療録の標準化を容易にし、電子診療録、さらにはケアマネジメント、リハビリテーション実施計画書における情報連携を容易にする。
3. 介護老人保健施設における診断に関する統計の標準化と、データの質の改善
4. 介護老人保健施設における研究、特に臨床研究において標準化とデータの質の改善

3. 研究班名簿

平成22年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)

「老健利用者の状態像の変化と、医療提供のあり方に関する調査研究事業」

研究事業班名簿

研究事業班長	高 椋 清	老人保健施設創生園 理事長
研究事業班	稲川 利光	NTT東日本関東病院 リハビリテーション科部長
	杉原 素子	社団法人日本作業療法士協会 顧問
	高橋 泰	国際医療福祉大学 大学院 医療経営管理分野分野責任者、教授
	中村 裕之	金沢大学大学院 医学系研究科 環境生態医学・公衆衛生学 教授
	半田 一登	社団法人日本理学療法士協会 会長
	平川 博之	介護老人保健施設ハートランド・ぐらんぱぐらんま 理事長
	三根 浩一郎	介護老人保健施設寿苑 理事長
作業部会長	大河内 二郎	介護老人保健施設竜間之郷 施設長
作業部会	内山 靖	社団法人日本理学療法士協会 副会長
	折茂 賢一郎	西吾妻福祉病院 管理者
	小山 敬子	医療法人社団大浦会 理事長
	内藤 圭之	介護老人保健施設なのはな苑 理事長
	田宮 菜奈子	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻 ヘルスサービスリサーチ 分野 教授

II. 調査結果の全体

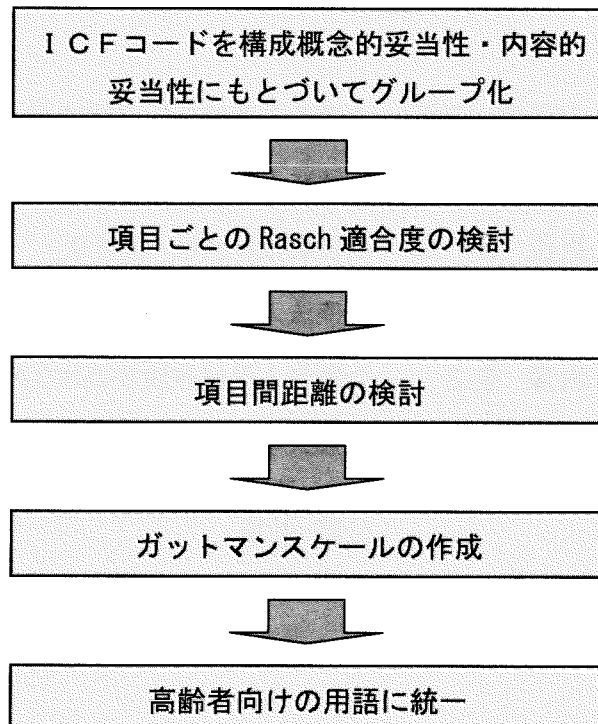
1. 調査の概要

(1) 調査の設計について

一昨年度までに実施した、「介護老人保健施設利用者の個別特性と時系列的状態像の指標（コーディング）の検証に関する調査研究事業」では、全国 14 箇所の老健施設に対して実施した指標作成のための調査・再調査を通して、老健施設利用者の個別特性と時系列的変化を把握するための指標を作成した。さらに、ランダムに抽出した入所・通所者について、作成した指標を用いた検証調査を実施した。

昨年度事業として取り組んだ「老健利用者の個別特性と時系列的状態像の指標（機能評価とコーディング）の検証に関する調査研究事業」ではこれまでの取り組みと調査結果をもとに、指標の妥当性の確認を行った。また、実際にケアプランや定期的なアセスメントでを使用することを念頭に、より簡便な指標を作成し、さらに追加として必要な指標の作成にも取り組み、再調査による検証を行なってきた。

スケール作成の流れ



指標項目の検討過程については、当協会が昨年度までに取り組んだ、「介護老人保健施設利用者の個別性与时系列的状態像の把握を目的とした指標作成に関する調査研究事業」（平成 19 年度 老人保健事業推進費等補助金事業）、「介護老人保健施設利用者の個別特性与时

系列的状態像の指標(コーディング)の検証に関する調査研究事業」(平成 20 年度 老人保健事業推進費等補助金事業) 報告書、および「老健利用者の個別特性と時系列的状態像の指標(機能評価とコーディング)の検証に関する調査研究事業」(平成 21 年度 老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分) 報告書に詳しいので参照されたい。

昨年度までの調査研究事業では、ICFコードの中から高齢者の状態像把握に敏感な項目を抽出し、構成概念的妥当性、内容的妥当性に基づいてグループ化した後、項目応答理論の Rasch モデルを援用してグループごとに項目ごとの Rasch 適合度の検討、項目間距離の検討を行なった。さらに選択された項目から 4 項目を選び、5 段階のガットマン型スケールを作成し、選択した項目のレベル設定に矛盾が生じていないことを確認している。

この指標の特徴は、まず、より機能が高い人が高い点数となっていることである。要介護認定は、より手間がかかる人が、高いレベルとなっているが、それは参照指標として介護時間を用いているためである。今回の指標は機能の程度を直接評価しているため、テストなどと同様に、機能レベルが高い方が、よりレベルが高い。

<参考> これまでに作成した5段階のガットマン型スケールの例

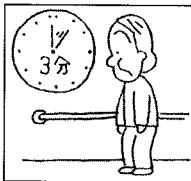
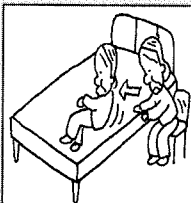



ICFレベルアセスメント

調査票「問11～16」の該当するレベルの番号に○を付けて下さい。

「状態の判定」は基本的に上から下に難易度レベル(高→低)を設定しています。

(2) 基本動作のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問11(2)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
立位の保持	つかまらずに一定の時間立位を保つこと	5	両足での立位の保持を行なっている	
		↑	行なっている	↓
		4	立位の保持は行なっていないが、座位での乗り移りは行なっている。	
座位での乗り移り	車椅子などからベッドへ移動する時のように、ある面に座った状態から、同等あるいは異なる高さの他の座面へと移動すること	↑	行なっている	↓
		3	座位での乗り移りは行なっていないが、座位(端座位)の保持は行なっている	
座位(端座位)の保持	ベッド等に、背もたれもなく“つかまらない”で、安定して座っていること(端座位)	↑	行なっている	↓
		2	座位(端座位)の保持は行なっていないが、寝返りは行なっている	
寝返り	寝返りをする事(つかまらず・つかまらずに関わらず)	↑	行なっている	↓
		1	寝返りは行なっていない	

(2) 参加の状況に関する調査項目について

これまでの研究事業では、ICFの中でも「機能」「活動」に関する指標の構築が中心であったが、残存能力のポジティブな評価方法として、要介護高齢者に特化した「参加」の指標構築を目指しデータを収集することとした。

調査項目については既存の社会参加等に関する指標項目を参考に作業部会で検討を行い、以下の調査項目を追加することとなった。

<参加の状況に関する調査項目>

調査対象者の方の「参加の状況」についてうかがいます。

「問17 過去1ヶ月間程度(9月~10月)における調査対象者の参加の状況について、あてはまる方に○を付けてください。」

※設問内に特に対象期間が示されているものは設問の期間であてはまる方に○を付けてください。

余 暇	入所施設や介護事業者が主催する映画やコンサート(スポーツや美術館など類似のレジャーも可)に参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	入所施設や介護事業者以外が主催する映画やコンサート(スポーツや美術館など類似のレジャーも可)に参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	公園や野外活動場に行きましたか	0 行っていない	1 行っている
	テレビをみましたか	0 行っていない	1 行っている
	ラジオを聴きましたか	0 行っていない	1 行っている
	新聞をよみましたか	0 行っていない	1 行っている
	旅行にいきましたか	0 行っていない	1 行っている
	趣味活動を自分から行いましたか	0 行っていない	1 行っている
	集団でおこなう体操へ参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	個人で体操を行いましたか	0 行っていない	1 行っている
	施設内で買い物をしましたか	0 行っていない	1 行っている
施設外で買い物をしましたか	0 行っていない	1 行っている	
社 会 活 動	ボランティア等の社会活動を行いましたか	0 行っていない	1 行っている
	地区会、地域センター、公民館活動に参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	宗教活動(墓参り・法事以外)への参加をしましたか	0 行っていない	1 行っている
	(この1年間)墓参り・法事に参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	(この1年間)結婚式その他の式典に参加されましたか	0 行っていない	1 行っている
	(この1年間)公職選挙法における投票に参加しましたか(国会議員、県議、市議、首長選挙など)	0 行っていない	1 行っている
職業や家事など何か決まった役割がありますか。	0 行っていない	1 行っている	
交 流	近所づきあいをしましたか	0 行っていない	1 行っている
	友人や親族の家への訪問を行いましたか	0 行っていない	1 行っている
	友人や親族と外出しましたか	0 行っていない	1 行っている
	親族による訪問をうけましたか	0 行っていない	1 行っている
	友人による訪問をうけましたか	0 行っていない	1 行っている
	家族・親族と会話をしましたか	0 行っていない	1 行っている
	友人と会話をしましたか	0 行っていない	1 行っている
	手紙を書きましたか	0 行っていない	1 行っている
電話をしましたか	0 行っていない	1 行っている	

(3) 診断名に関する調査項目について

また、これまで課題となってきた「診断名の標準化」については、昨年度の調査で得られた診断名に関するデータの分析結果に基づき、「主疾患」として出現頻度が高い診断名を元に、ICDコードに準拠した16分類・78項目の診断名リストを作成した。今年度事業の調査で、この78項目の診断名リストを50項目程度に絞り込むとともに、高齢者に出現頻度の高いその他の診断名を新たに加えることとした。

具体的な調査方法としては、診断名リスト78項目を第一軸として「重要なもの3つを選択」し、第二軸の「特記すべき状態リスト」で該当する全てを選択して補完する方法が提案されたが、

- ・ 既往の診断名や前医による診断名、ある一時期だけ出現する症状の扱いをどう考えるか。
- ・ 要介護の原因に関わる診断名が把握できれば足りるのではないか。
- ・ 既往症を複数選択し、その中で現在も見られるアクティブな疾患を選択させてはどうか。
- ・ 状態に関わる第二軸を先に問い、心身活動が落ちた原因となる疾患を選択してはどうか。

等の議論が行われた結果、今回の調査では、

① 主診断名(3つまで)を記載



② 第一軸の『診断名リスト(78項目)』から呼応する番号を選択



③ ①のうち、最も主となる診断名を1つ選択



④ 第二軸の『特記すべき状態リスト』で該当する状態をすべて選択

という調査方法を採用することとした。

(4) 調査実施要領

①調査対象者

一昨年度以来の事業において実施した調査で協力を得た、無作為抽出による調査対象7,130名に対し、これまでの調査と同一の利用者に対する状態像変化について再調査を依頼した。

このため、欠員が生じた場合でも新たに調査対象者を抽出することは求めなかった。また、退所等により調査対象施設でのサービスを利用しなくなった調査対象者については、以下の要領で扱うこととした。

- ・ 入所利用から退所となった場合、通所リハビリテーションや短期入所利用等で追跡が可能な者については、可能な範囲で調査実施を依頼。通所利用から入所に移行した者についても同様に、追跡が可能な方は継続調査の実施を依頼。
- ・ 他の施設に移ったり、死亡等の理由により継続調査の実施が不可能な者については、対比表に継続調査が出来ない理由を記入。

②調査実施者

調査実施者については、原則として前回調査時の調査実施者に依頼することとした。ただし、前回調査時の調査実施者が異動等の理由により実施が困難な場合は、以下の条件に合致する調査者を新たに選出してもらうこととした。

【調査実施者の選定要件】

- ・ 看護職・介護福祉士・リハビリ専門職のいずれかであること。
- ・ これまで高齢者の定型的なアセスメントを行った経験があること。

(5) 回収状況（過去3回の回収状況の整理）

第1回目調査の回収数は7,884サンプルであり、このうち、今回(3回目)で入所・通所者として集計対象となったのは3,499サンプルであった。

なお、以下の調査結果の各質問の集計にあたっては、無回答は除いている。

■初回から3回目の回収状況

	2回目		3回目	
	件数	割合	件数	割合
回収数	6,206	78.7%	5,148	65.3%
現在も入所・通所中	4,432	56.2%	3,499	43.7%
在宅復帰中でデイケアの利用なし	197	2.5%	176	2.2%
その他の病院・施設に入院、入所中	891	11.3%	865	11.0%
死亡	364	4.6%	470	6.0%
不明	322	4.1%	188	2.4%
回収不能	1,678	21.3%	2,736	34.7%
計	7,884	100.0%	7,884	100.0%

2. 調査結果

(1) 調査者のプロフィール

今回の調査者のプロフィールは以下の通りである。

①職種

	回答数	割合
看護職	1,976	40.1%
リハ専門職	554	11.2%
介護福祉士	2,401	48.7%
計	4,931	100.0%

②職種経験年数

	回答数	割合
5年以下	576	11.5%
6～10年	1,269	25.4%
11～20年	1,707	34.1%
21年以上	1,449	29.0%
計	5,001	100.0%

③介護支援専門員資格の有無

	回答数	割合
あり	2,299	46.0%
なし	2,695	54.0%
計	4,994	100.0%

④要介護認定調査の経験の有無

	回答数	割合
あり	1,389	28.1%
なし	3,554	71.9%
計	4,943	100.0%

(2) 調査対象者のプロフィール

①性別

・性別は、入所者では「女性」が8割を占めるのに対し、通所者は6割弱となっている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
男性	317	19.9%	777	42.7%
女性	1,273	80.1%	1,041	57.3%
計	1,590	100.0%	1,818	100.0%

②年齢

・入所者の平均年齢は 85.7 歳、通所者の平均年齢は 80.5 歳となっている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
60歳未満	11	0.7%	36	2.0%
60歳～64歳	22	1.4%	74	4.1%
65歳～69歳	33	2.1%	141	7.8%
70歳～74歳	78	4.9%	184	10.2%
75歳～79歳	164	10.4%	324	18.0%
80歳～84歳	320	20.3%	371	20.6%
85歳～89歳	399	25.3%	369	20.5%
90歳以上	553	35.0%	300	16.7%
計	1,580	100.0%	1,799	100.0%

	【入所者】	【通所者】
平均年齢	85.7歳	80.5歳

③要介護度

- ・入所者の要介護度は「要介護4」が 26.3%と最も多い。通所者では「要介護2」が 27.4%と最も多くなっている。
- ・初回調査と比較すると、入所者、通所者ともに「要介護4」「要介護5」の割合がやや増えている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
要支援1	0	0.0%	56	3.1%
要支援2	14	0.9%	182	10.2%
要介護1	145	9.2%	321	18.0%
要介護2	334	21.3%	488	27.4%
要介護3	384	24.5%	372	20.9%
要介護4	412	26.3%	258	14.5%
要介護5	279	17.8%	106	5.9%
計	1,568	100.0%	1,783	100.0%

	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,578	N=1,568	N=1,810	N=1,783
要支援1	0.0%	0.0%	3.1%	3.1%
要支援2	0.0%	0.9%	12.7%	10.2%
要介護1	10.7%	9.2%	18.7%	18.0%
要介護2	24.0%	21.3%	28.6%	27.4%
要介護3	31.1%	24.5%	21.8%	20.9%
要介護4	21.6%	26.3%	11.7%	14.5%
要介護5	12.6%	17.8%	3.4%	5.9%

④障害高齢者の日常生活自立度

- ・入所者の障害高齢者の日常生活自立度は、「B2」が 30.1%と最も多い。通所者では、「A1」が 27.6%と多くなっている。
- ・初回調査と比較すると、入所者では「B2」「C1」「C2」がやや増加し、通所者も「B1」「B2」「C2」が増加するなど、自立度の低下傾向がうかがえる。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
正常	2	0.1%	42	2.4%
J 1	4	0.3%	106	5.9%
J 2	22	1.4%	251	14.1%
A 1	171	10.8%	493	27.6%
A 2	243	15.3%	347	19.5%
B 1	382	24.1%	265	14.9%
B 2	477	30.1%	213	11.9%
C 1	86	5.4%	24	1.3%
C 2	200	12.6%	43	2.4%
計	1,587	100.0%	1,784	100.0%

	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,585	N=1,587	N=1,797	N=1,784
正常	0.6%	0.1%	2.6%	2.4%
J 1	0.6%	0.3%	6.7%	5.9%
J 2	2.4%	1.4%	16.0%	14.1%
A 1	13.2%	10.8%	30.2%	27.6%
A 2	21.2%	15.3%	19.6%	19.5%
B 1	24.4%	24.1%	13.7%	14.9%
B 2	26.8%	30.1%	8.3%	11.9%
C 1	3.8%	5.4%	1.6%	1.3%
C 2	6.9%	12.6%	1.3%	2.4%

⑤認知症高齢者の日常生活自立度

- ・入所者の認知症高齢者の日常生活自立度は、「Ⅲa」が 26.1%と最も多い。通所者では、「正常」が 30.9%と最も多く、ついで「Ⅰ」が 24.3%で続いている。
- ・初回調査と比較すると、入所者では「Ⅲa」と「Ⅳ」がやや増加している。通所者では「正常」の減少が目立っている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
正常	100	6.3%	552	30.9%
Ⅰ	161	10.2%	433	24.3%
Ⅱ a	197	12.4%	250	14.0%
Ⅱ b	327	20.6%	262	14.7%
Ⅲ a	413	26.1%	177	9.9%
Ⅲ b	151	9.5%	51	2.9%
Ⅳ	205	12.9%	55	3.1%
M	31	2.0%	5	0.3%
計	1,585	100.0%	1,785	100.0%

	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,582	N=1,585	N=1,791	N=1,785
正常	8.1%	6.3%	37.7%	30.9%
Ⅰ	14.9%	10.2%	23.0%	24.3%
Ⅱ a	14.3%	12.4%	15.0%	14.0%
Ⅱ b	20.1%	20.6%	12.3%	14.7%
Ⅲ a	23.7%	26.1%	7.8%	9.9%
Ⅲ b	8.3%	9.5%	1.5%	2.9%
Ⅳ	9.0%	12.9%	2.5%	3.1%
M	1.5%	2.0%	0.2%	0.3%

⑥短期集中リハビリテーションの実施(ADL)

- ・短期集中リハビリテーションの実施については、入所者、通所者ともに「加算は算定していないが個別リハビリを行なっている」が多数を占めている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
加算を算定している	88	6.0%	382	21.9%
加算は算定していないが個別リハビリを行なっている	1,144	77.6%	986	56.4%
加算を算定しておらず、個別リハビリも行なっていない	242	16.4%	380	21.7%
計	1,474	100.0%	1,748	100.0%

⑦認知症短期集中リハビリテーションの実施

- ・認知症短期集中リハビリテーションの実施については、入所者、通所者ともに「加算を算定しておらず、認知リハビリも行なっていない」が多数を占めている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
加算を算定している	38	2.6%	15	0.9%
加算は算定していないが認知リハビリを行なっている	259	17.7%	118	6.9%
加算を算定しておらず、認知リハビリも行なっていない	1,165	79.7%	1,587	92.3%
計	1,462	100.0%	1,720	100.0%

(3) 調査対象者の調査実施期間における変化

①疾患の発症・悪化の有無

- ・前回調査以降に疾患の発症・悪化が「あった」とする回答が多いのは、入所者、通所者ともに「転倒」と「発熱」である。
- ・初回調査と比較すると、入所者では、「転倒」以外は「あった」との回答が増加している。通所者では、「転倒」「発熱」の増加がやや目立っている。

上段:回答数、下段:割合

	【入所者】			【通所者】		
	計	あった	ない	計	あった	ない
a.転倒	1,576	478	1,098	1,808	653	1,155
	100.0%	30.3%	69.7%	100.0%	36.1%	63.9%
b.骨折	1,578	92	1,486	1,812	89	1,723
	100.0%	5.8%	94.2%	100.0%	4.9%	95.1%
c.脱水	1,575	85	1,490	1,808	79	1,729
	100.0%	5.4%	94.6%	100.0%	4.4%	95.6%
d.褥瘡の出現	1,579	152	1,427	1,808	84	1,724
	100.0%	9.6%	90.4%	100.0%	4.6%	95.4%
e.発熱	1,563	643	920	1,786	507	1,279
	100.0%	41.1%	58.9%	100.0%	28.4%	71.6%
f.感染症 (インフルエンザ、ノロウイルス等)	1,566	51	1,515	1,791	22	1,769
	100.0%	3.3%	96.7%	100.0%	1.2%	98.8%
g.誤嚥	1,575	112	1,463	1,799	87	1,712
	100.0%	7.1%	92.9%	100.0%	4.8%	95.2%
h.脳の発作	1,579	40	1,539	1,799	55	1,744
	100.0%	2.5%	97.5%	100.0%	3.1%	96.9%
i.心臓発作	1,577	27	1,550	1,801	26	1,775
	100.0%	1.7%	98.3%	100.0%	1.4%	98.6%
j.麻痺進行	1,572	58	1,514	1,797	50	1,747
	100.0%	3.7%	96.3%	100.0%	2.8%	97.2%
k.その他の変化	1,457	273	1,184	1,669	218	1,451
	100.0%	18.7%	81.3%	100.0%	13.1%	86.9%

「あった」の割合	【入所者】		【通所者】	
	初 回	今 回	初 回	今 回
a.転 倒	33.3%	30.3%	31.8%	36.1%
c.脱 水	4.8%	5.4%	3.5%	4.4%
d.褥瘡の出現	6.8%	9.6%	4.1%	4.6%
e.発 熱	35.7%	41.1%	21.7%	28.4%
g.誤 嚥	5.1%	7.1%	5.6%	4.8%
k.その他の変化	13.1%	18.7%	9.5%	13.1%

②身体にかかわる変化

- ・過去1年間に身体にかかわる変化が「あった」とする回答が多いのは、入所者では「過去1年間に転んだことがある」と「毎日5種類以上の薬をのんでいる」の2項目、通所者では「背中が丸くなった」以外は40%前後が「あった」と回答している。
- ・初回調査と比較すると、入所者では「過去1年間に転んだことがある」、通所者では「つえを使っている」との回答割合が減少している。

上段:回答数、下段:割合

	【入所者】			【通所者】		
	計	あった	ない	計	あった	ない
l.過去1年間に転んだことがある	1,578	509	1,069	1,810	678	1,132
	100.0%	32.3%	67.7%	100.0%	37.5%	62.5%
m.背中が丸くなった	1,563	289	1,274	1,804	312	1,492
	100.0%	18.5%	81.5%	100.0%	17.3%	82.7%
n.歩く速度が遅くなったと思う	1,538	290	1,248	1,802	645	1,157
	100.0%	18.9%	81.1%	100.0%	35.8%	64.2%
o.つえを使っている	1,555	104	1,451	1,805	734	1,071
	100.0%	6.7%	93.3%	100.0%	40.7%	59.3%
p.毎日5種類以上の薬をのんでいる	1,564	604	960	1,778	768	1,010
	100.0%	38.6%	61.4%	100.0%	43.2%	56.8%

「あった」の割合	【入所者】		【通所者】	
	初 回	今 回	初 回	今 回
l.過去1年間に転んだことがある	41.4%	32.3%	40.3%	37.5%
m.背中が丸くなった	19.0%	18.5%	19.1%	17.3%
n.歩く速度が遅くなったと思う	23.8%	18.9%	32.8%	35.8%
o.つえを使っている	12.8%	6.7%	46.0%	40.7%
p.毎日5種類以上の薬をのんでいる	38.5%	38.6%	44.5%	43.2%

(4) 調査対象者の医療度

- ・医療度は、入所者、通所者ともに「医療度1：安定した外来診療レベル」が多数を占めているが、入所者では「医療度2：多少変調をきたした外来診療レベル」も2割近くみられる。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
医療区分3	11	0.7%	4	0.2%
医療区分2	122	7.7%	142	8.0%
医療度4：医療区分1（重度側）	21	1.3%	3	0.2%
医療度3：医療区分1（軽度側）	179	11.3%	26	1.5%
医療度2：多少変調をきたした外来診療レベル	303	19.2%	160	9.1%
医療度1：安定した外来診療レベル	827	52.4%	1,385	78.4%
医療度0：「無疾患」「健康」状態	116	7.3%	47	2.7%
計	1,579	100.0%	1,767	100.0%

(5) 調査対象者の治療行為にかかる手間のかかり度

- ・治療行為にかかる手間のかかり度をみると、入所者、通所者ともに「清拭やオムツの交換を頻回に要する状態」が最も多く、ついで「介護拒否や突然の暴力が見られる状態」、「嚥下困難により食事介助の手間がかかる状態」が多くなっている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
原因疾患によらず血中酸素濃度測定や酸素投与を要する状態	21	3.4%	8	4.5%
喀痰の吸引が頻回に必要な状態	45	7.3%	8	4.5%
治療を行うためスタッフがほぼ常時そばにつき添う状態	30	4.8%	17	9.6%
清拭やオムツの交換を頻回に要する状態	340	54.8%	62	34.8%
体位交換が頻回、複数人数の介助を要する状態	242	39.0%	39	21.9%
末梢血管の確保が困難な状態	33	5.3%	6	3.4%
介護拒否や突然の暴力が見られる状態	159	25.6%	52	29.2%
嚥下困難により食事介助の手間がかかる状態	173	27.9%	46	25.8%
拒食・拒薬のある状態	78	12.6%	14	7.9%
せん妄状態	78	12.6%	24	13.5%
計	620	100.0%	178	100.0%

(6) 調査対象者の基礎疾患等の状況

①調査対象者の診断名

- ・調査対象者の主な診断名を3つまでと、そのうち最も主となる診断名について、主な診断名3つまでのうち、全体で5%以上あげられた診断名を整理したのが次頁の表である。
- ・主な診断名3つまでで、入所者、通所者とも2割を超えているのは「脳梗塞」と「高血圧症」であり、ついで、「糖尿病」が10%台で続いている。なお、入所者では「アルツハイマー型認知症」、「脳血管性認知症」なども10%台で上位にあげられている。
- ・要介護度別に上位5%以上の主な診断名3つまでをみたのが、22～24ページまでの表である。「脳梗塞」「アルツハイマー型認知症」「脳血管性認知症」は要介護度があがるにしたがって割合が多くなっている。
- ・骨粗しょう症、変形性関節症は、要介護度が低い群で割合が高くなっている。
- ・このことから、これまで指摘されていたように、要介護度が低い群の疾患群は、高い群の疾患群は異なっており、介護状態にいたる原因が、異なっていることが考えられた。

■全体上位5%以上の診断名

上段:回答数、下段:割合

		【全体】		【入所者】		【通所者】	
		診断名	主な診断名	診断名	主な診断名	診断名	主な診断名
		N=3,267	N=2,928	N=1,534	N=1,391	N=1,733	N=1,537
循環器系の疾患							
1	脳梗塞	1,000 30.6%	673 23.0%	420 27.4%	245 17.6%	580 33.5%	428 27.8%
2	脳出血	461 14.1%	340 11.6%	156 10.2%	107 7.7%	305 17.6%	233 15.2%
5	高血圧症（認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない）	912 27.9%	132 4.5%	414 27.0%	64 4.6%	498 28.7%	68 4.4%
6	慢性心不全	188 5.8%	69 2.4%	124 8.1%	45 3.2%	64 3.7%	24 1.6%
8	狭心症	148 4.5%	27 0.9%	58 3.8%	11 0.8%	90 5.2%	16 1.0%
10	その他の心疾患	198 6.1%	31 1.1%	95 6.2%	12 0.9%	103 5.9%	19 1.2%
精神及び行動の障害							
13	アルツハイマー型認知症	330 10.1%	239 8.2%	213 13.9%	165 11.9%	117 6.8%	74 4.8%
14	脳血管性認知症	247 7.6%	126 4.3%	183 11.9%	99 7.1%	64 3.7%	27 1.8%
16	下記以外の認知症（脳血管性・アルツハイマー型・混合型・レビー小体型・ピック病）	206 6.3%	122 4.2%	141 9.2%	87 6.3%	65 3.8%	35 2.3%
19	まだ確定診断のついていない認知症	130 4.0%	63 2.2%	97 6.3%	49 3.5%	33 1.9%	14 0.9%
内分泌、栄養及び代謝疾患							
26	糖尿病（認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない）	441 13.5%	124 4.2%	172 11.2%	65 4.7%	269 15.5%	59 3.8%
筋骨格系及び結合組織の疾患							
33	下肢の変形性関節症（股関節・膝関節）	283 8.7%	95 3.2%	112 7.3%	25 1.8%	171 9.9%	70 4.6%
35	大腿骨の骨折（手術を行った）	288 8.8%	84 2.9%	171 11.1%	40 2.9%	117 6.8%	44 2.9%
38	骨粗しょう症	181 5.5%	17 0.6%	82 5.3%	7 0.5%	99 5.7%	10 0.7%

■要介護度別全体：上位5%以上の診断名

上段：回答数、下段：割合

		要支援1 N=54	要支援2 N=174	要介護1 N=437	要介護2 N=786	要介護3 N=726	要介護4 N=644	要介護5 N=369
1	脳梗塞	15	47	123	231	213	212	130
		27.8%	27.0%	28.1%	29.4%	29.3%	32.9%	35.2%
5	高血圧症 (認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	21	59	145	235	209	156	69
		38.9%	33.9%	33.2%	29.9%	28.8%	24.2%	18.7%
2	脳出血	5	18	53	101	124	111	42
		9.3%	10.3%	12.1%	12.8%	17.1%	17.2%	11.4%
26	糖尿病 (認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	9	28	57	114	94	83	43
		16.7%	16.1%	13.0%	14.5%	12.9%	12.9%	11.7%
13	アルツハイマー型認知症	0	1	42	64	65	80	67
		0.0%	0.6%	9.6%	8.1%	9.0%	12.4%	18.2%
35	大腿骨の骨折(手術を行った)	3	7	27	74	64	69	35
		5.6%	4.0%	6.2%	9.4%	8.8%	10.7%	9.5%
33	下肢の変形性関節症 (股関節・膝関節)	10	32	48	62	60	43	22
		18.5%	18.4%	11.0%	7.9%	8.3%	6.7%	6.0%
14	脳血管性認知症	0	3	17	35	57	70	55
		0.0%	1.7%	3.9%	4.5%	7.9%	10.9%	14.9%
16	下記以外の認知症(脳血管性・アルツハイマー型・混合型・レビー小体型・ピック病)	1	0	29	44	47	47	33
		1.9%	0.0%	6.6%	5.6%	6.5%	7.3%	8.9%
10	その他の心疾患	5	10	27	55	39	37	22
		9.3%	5.7%	6.2%	7.0%	5.4%	5.7%	6.0%
6	慢性心不全	3	6	20	50	42	39	24
		5.6%	3.4%	4.6%	6.4%	5.8%	6.1%	6.5%
38	骨粗しょう症	3	16	29	48	31	29	16
		5.6%	9.2%	6.6%	6.1%	4.3%	4.5%	4.3%

■要介護度別入所者：上位5%以上の診断名

上段：回答数、下段：割合

		要介護1 N=139	要介護2 N=319	要介護3 N=370	要介護4 N=395	要介護5 N=266
1	脳梗塞	30	69	98	121	91
		21.6%	21.6%	26.5%	30.6%	34.2%
5	高血圧症 (認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	58	92	107	94	48
		41.7%	28.8%	28.9%	23.8%	18.0%
13	アルツハイマー型認知症	13	31	43	61	57
		9.4%	9.7%	11.6%	15.4%	21.4%
14	脳血管性認知症	8	26	41	55	44
		5.8%	8.2%	11.1%	13.9%	16.5%
26	糖尿病 (認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	15	41	36	42	30
		10.8%	12.9%	9.7%	10.6%	11.3%
35	大腿骨の骨折 (手術を行った)	11	37	37	52	26
		7.9%	11.6%	10.0%	13.2%	9.8%
2	脳出血	14	22	36	51	28
		10.1%	6.9%	9.7%	12.9%	10.5%
16	下記以外の認知症 (脳血管性・アルツハイマー型・混合型・レビー小体型・ピック病)	10	29	35	37	28
		7.2%	9.1%	9.5%	9.4%	10.5%
6	慢性心不全	9	26	30	32	21
		6.5%	8.2%	8.1%	8.1%	7.9%
33	下肢の変形性関節症 (股関節・膝関節)	15	28	30	26	12
		10.8%	8.8%	8.1%	6.6%	4.5%
19	まだ確定診断のついていない認知症	5	22	26	23	20
		3.6%	6.9%	7.0%	5.8%	7.5%
10	その他の心疾患	12	23	23	20	15
		8.6%	7.2%	6.2%	5.1%	5.6%
38	骨粗しょう症	11	19	14	19	13
		7.9%	6.0%	3.8%	4.8%	4.9%

■要介護度別通所者：上位5%以上の診断名

上段：回答数、下段：割合

		要支援1 N=54	要支援2 N=164	要介護1 N=298	要介護2 N=467	要介護3 N=356	要介護4 N=249	要介護5 N=103
1	脳梗塞	15	46	93	162	115	91	39
		27.8%	28.0%	31.2%	34.7%	32.3%	36.5%	37.9%
5	高血圧症 (認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	21	53	87	143	102	62	21
		38.9%	32.3%	29.2%	30.6%	28.7%	24.9%	20.4%
2	脳出血	5	17	39	79	88	60	14
		9.3%	10.4%	13.1%	16.9%	24.7%	24.1%	13.6%
26	糖尿病 (認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	9	26	42	73	58	41	13
		16.7%	15.9%	14.1%	15.6%	16.3%	16.5%	12.6%
33	下肢の変形性関節症 (股関節・膝関節)	10	31	33	34	30	17	10
		18.5%	18.9%	11.1%	7.3%	8.4%	6.8%	9.7%
13	アルツハイマー型認知症	0	0	29	33	22	19	10
		0.0%	0.0%	9.7%	7.1%	6.2%	7.6%	9.7%
35	大腿骨の骨折 (手術を行った)	3	7	16	37	27	17	9
		5.6%	4.3%	5.4%	7.9%	7.6%	6.8%	8.7%
10	その他の心疾患	5	9	15	32	16	17	7
		9.3%	5.5%	5.0%	6.9%	4.5%	6.8%	6.8%
38	骨粗しょう症	3	16	18	29	17	10	3
		5.6%	9.8%	6.0%	6.2%	4.8%	4.0%	2.9%
8	狭心症	4	13	22	18	23	7	2
		7.4%	7.9%	7.4%	3.9%	6.5%	2.8%	1.9%

■診断名の詳細結果

上段：割合、下段：回答数

		【全体】		【入所者】		【通所者】	
		診断名	主な 診断名	診断名	主な 診断名	診断名	主な 診断名
		N=3,267	N=2,928	N=1,534	N=1,391	N=1,733	N=1,537
循環器系の疾患							
1	脳梗塞	1,000	673	420	245	580	428
		30.6%	23.0%	27.4%	17.6%	33.5%	27.8%
2	脳出血	461	340	156	107	305	233
		14.1%	11.6%	10.2%	7.7%	17.6%	15.2%
3	多発性脳梗塞	119	59	64	28	55	31
		3.6%	2.0%	4.2%	2.0%	3.2%	2.0%
4	その他の脳血管疾患	138	58	64	22	74	36
		4.2%	2.0%	4.2%	1.6%	4.3%	2.3%
5	高血圧症（認知症や脳血管障害 など他の病態を伴わない）	912	132	414	64	498	68
		27.9%	4.5%	27.0%	4.6%	28.7%	4.4%
6	慢性心不全	188	69	124	45	64	24
		5.8%	2.4%	8.1%	3.2%	3.7%	1.6%
7	心筋梗塞	50	13	16	6	34	7
		1.5%	0.4%	1.0%	0.4%	2.0%	0.5%
8	狭心症	148	27	58	11	90	16
		4.5%	0.9%	3.8%	0.8%	5.2%	1.0%
9	不整脈	42	6	17	3	25	3
		1.3%	0.2%	1.1%	0.2%	1.4%	0.2%
10	その他の心疾患	198	31	95	12	103	19
		6.1%	1.1%	6.2%	0.9%	5.9%	1.2%
11	閉塞性動脈硬化症	26	8	12	3	14	5
		0.8%	0.3%	0.8%	0.2%	0.8%	0.3%
12	その他の中枢または末梢血管の 疾患	60	12	35	6	25	6
		1.8%	0.4%	2.3%	0.4%	1.4%	0.4%

上段：割合、下段：回答数

		【全体】		【入所者】		【通所者】	
		診断名	主な 診断名	診断名	主な 診断名	診断名	主な 診断名
		N=3,267	N=2,928	N=1,534	N=1,391	N=1,733	N=1,537
精神及び行動の障害							
13	アルツハイマー型認知症	330	239	213	165	117	74
		10.1%	8.2%	13.9%	11.9%	6.8%	4.8%
14	脳血管性認知症	247	126	183	99	64	27
		7.6%	4.3%	11.9%	7.1%	3.7%	1.8%
15	レビー小体型認知症	7	6	2	2	5	4
		0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.3%	0.3%
16	下記以外の認知症（脳血管性・アルツハイマー型・混合型・レビー小体型・ピック病）	206	122	141	87	65	35
		6.3%	4.2%	9.2%	6.3%	3.8%	2.3%
17	前頭・側頭葉型認知症（ピック病等）	6	4	3	2	3	2
		0.2%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%
18	混合型認知症	26	15	20	14	6	1
		0.8%	0.5%	1.3%	1.0%	0.3%	0.1%
19	まだ確定診断のついていない認知症	130	63	97	49	33	14
		4.0%	2.2%	6.3%	3.5%	1.9%	0.9%
20	うつ病	90	30	48	15	42	15
		2.8%	1.0%	3.1%	1.1%	2.4%	1.0%
21	その他の精神疾患（統合失調症を含む）	85	34	59	22	26	12
		2.6%	1.2%	3.8%	1.6%	1.5%	0.8%
神経系の疾患							
22	パーキンソン病	119	86	53	35	66	51
		3.6%	2.9%	3.5%	2.5%	3.8%	3.3%
23	パーキンソン病以外の脊髄小脳変性疾患	16	12	9	6	7	6
		0.5%	0.4%	0.6%	0.4%	0.4%	0.4%
24	その他の中枢神経疾患	36	12	15	4	21	8
		1.1%	0.4%	1.0%	0.3%	1.2%	0.5%
25	末梢神経疾患	13	4	9	3	4	1
		0.4%	0.1%	0.6%	0.2%	0.2%	0.1%

上段：割合、下段：回答数

		【全体】		【入所者】		【通所者】	
		診断名	主な診断名	診断名	主な診断名	診断名	主な診断名
		N=3,267	N=2,928	N=1,534	N=1,391	N=1,733	N=1,537
内分泌、栄養及び代謝疾患							
26	糖尿病（認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない）	441	124	172	65	269	59
		13.5%	4.2%	11.2%	4.7%	15.5%	3.8%
27	栄養障害	6	0	3	0	3	0
		0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%
28	肥満	8	2	4	1	4	1
		0.2%	0.1%	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%
29	その他の代謝・内分泌疾患	95	15	45	11	50	4
		2.9%	0.5%	2.9%	0.8%	2.9%	0.3%
筋骨格系及び結合組織の疾患							
30	脊髄損傷	23	19	6	4	17	15
		0.7%	0.6%	0.4%	0.3%	1.0%	1.0%
31	脊柱管狭窄症	92	43	28	13	64	30
		2.8%	1.5%	1.8%	0.9%	3.7%	2.0%
32	変形性脊椎症	119	33	56	14	63	19
		3.6%	1.1%	3.7%	1.0%	3.6%	1.2%
33	下肢の変形性関節症（股関節・膝関節）	283	95	112	25	171	70
		8.7%	3.2%	7.3%	1.8%	9.9%	4.6%
34	上肢の変形性関節症（肩関節・肘関節）	10	1	3	0	7	1
		0.3%	0.0%	0.2%	0.0%	0.4%	0.1%
35	大腿骨の骨折（手術を行った）	288	84	171	40	117	44
		8.8%	2.9%	11.1%	2.9%	6.8%	2.9%
36	大腿骨以外の骨折（手術を行った）	42	15	22	8	20	7
		1.3%	0.5%	1.4%	0.6%	1.2%	0.5%
37	骨折（保存的治療のみ）	124	35	61	17	63	18
		3.8%	1.2%	4.0%	1.2%	3.6%	1.2%
38	骨粗しょう症	181	17	82	7	99	10
		5.5%	0.6%	5.3%	0.5%	5.7%	0.7%
39	その他の骨・脊椎疾患	141	56	68	26	73	30
		4.3%	1.9%	4.4%	1.9%	4.2%	2.0%
40	関節リウマチ	57	32	26	13	31	19
		1.7%	1.1%	1.7%	0.9%	1.8%	1.2%
41	関節リウマチ以外の全身性結合組織障害	3	0	1	0	2	0
		0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
42	筋、軟部組織の障害	15	5	5	3	10	2
		0.5%	0.2%	0.3%	0.2%	0.6%	0.1%

上段：割合、下段：回答数

		【全体】		【入所者】		【通所者】	
		診断名	主な 診断名	診断名	主な 診断名	診断名	主な 診断名
		N=3,267	N=2,928	N=1,534	N=1,391	N=1,733	N=1,537
呼吸器系の疾患							
43	気管支喘息	51	16	25	7	26	9
		1.6%	0.5%	1.6%	0.5%	1.5%	0.6%
44	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	22	6	12	3	10	3
		0.7%	0.2%	0.8%	0.2%	0.6%	0.2%
45	誤嚥性・吸引性(不顕性)肺炎などの慢性呼吸器感染症	32	9	21	6	11	3
		1.0%	0.3%	1.4%	0.4%	0.6%	0.2%
46	急性呼吸器感染症	7	1	5	1	2	0
		0.2%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%
47	その他肺および胸膜など呼吸器の疾患	38	10	19	6	19	4
		1.2%	0.3%	1.2%	0.4%	1.1%	0.3%
腎尿路生殖器系の疾患							
48	腎不全（慢性・急性を含む）	44	16	23	9	21	7
		1.3%	0.5%	1.5%	0.6%	1.2%	0.5%
49	尿路結石症など尿路の疾患	11	3	6	2	5	1
		0.3%	0.1%	0.4%	0.1%	0.3%	0.1%
50	尿路感染症（膀胱炎など）	27	7	19	5	8	2
		0.8%	0.2%	1.2%	0.4%	0.5%	0.1%
51	女性生殖器・骨盤臓器の疾患	6	1	5	1	1	0
		0.2%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%
52	前立腺肥大症などの男性生殖器の疾患	66	6	28	3	38	3
		2.0%	0.2%	1.8%	0.2%	2.2%	0.2%
53	乳房の障害	5	0	3	0	2	0
		0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%

上段：割合、下段：回答数

		【全体】		【入所者】		【通所者】	
		診断名	主な診断名	診断名	主な診断名	診断名	主な診断名
		N=3,267	N=2,928	N=1,534	N=1,391	N=1,733	N=1,537
消化器系の疾患							
54	口腔・唾液腺・顎の疾患	1	0	0	0	1	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
55	胃・食道疾患	77	8	50	4	27	4
		2.4%	0.3%	3.3%	0.3%	1.6%	0.3%
56	小腸・大腸の疾患	49	8	29	6	20	2
		1.5%	0.3%	1.9%	0.4%	1.2%	0.1%
57	腹膜の疾患	3	0	2	0	1	0
		0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
58	肝胆膵の疾患	73	14	38	7	35	7
		2.2%	0.5%	2.5%	0.5%	2.0%	0.5%
59	ヘルニア	11	1	8	1	3	0
		0.3%	0.0%	0.5%	0.1%	0.2%	0.0%
60	肛門の疾患	6	3	4	2	2	1
		0.2%	0.1%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%
61	その他の消化器の疾患	35	6	18	4	17	2
		1.1%	0.2%	1.2%	0.3%	1.0%	0.1%
新生物							
62	悪性新生物	81	24	37	10	44	14
		2.5%	0.8%	2.4%	0.7%	2.5%	0.9%
63	良性新生物	4	1	2	0	2	1
		0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%
64	その他特定されない新生物	6	1	4	0	2	1
		0.2%	0.0%	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%
眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患							
65	緑内障・白内障などの眼およびその付属器の疾患	62	7	36	2	26	5
		1.9%	0.2%	2.3%	0.1%	1.5%	0.3%
66	耳および乳様突起の疾患	6	1	2	0	4	1
		0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%

上段：割合、下段：回答数

		【全体】		【入所者】		【通所者】	
		診断名	主な 診断名	診断名	主な 診断名	診断名	主な 診断名
		N=3,267	N=2,928	N=1,534	N=1,391	N=1,733	N=1,537
皮膚及び皮下組織の疾患							
67	疥癬・蜂窩織炎・白癬等感染症	4	0	1	0	3	0
		0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%
68	水疱症（天疱瘡・類天疱瘡等）	9	1	8	1	1	0
		0.3%	0.0%	0.5%	0.1%	0.1%	0.0%
69	アレルギー性皮膚疾患	3	0	2	0	1	0
		0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
70	褥創	9	1	8	1	1	0
		0.3%	0.0%	0.5%	0.1%	0.1%	0.0%
71	皮膚の切創などの外傷	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
72	その他の皮膚疾患	18	3	14	1	4	2
		0.6%	0.1%	0.9%	0.1%	0.2%	0.1%
感染症及び寄生虫症							
73	感染症	9	1	5	1	4	0
		0.3%	0.0%	0.3%	0.1%	0.2%	0.0%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害							
74	貧血	29	2	18	1	11	1
		0.9%	0.1%	1.2%	0.1%	0.6%	0.1%
75	貧血以外の血液・免疫および凝固系の疾患	7	2	6	2	1	0
		0.2%	0.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%
周産期に発生した病態							
76	周産器や小児期の疾患の後遺症	7	4	2	1	5	3
		0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%
先天奇形、変形及び染色体異常							
77	先天奇形・変形および染色体異常	1	1	1	1	0	0
		0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
損傷、中毒及びその他の外因の影響							
78	損傷、中毒及びその他の外因の影響	18	7	5	1	13	6
		0.6%	0.2%	0.3%	0.1%	0.8%	0.4%

②その他特記すべき状態

- ・調査対象者のその他特記すべき状態について、あてはまるものをすべてあげてもらったところ、入所者、通所者ともに「片麻痺」と「認知症の周辺症状（BPSD）」の2つが多くなっている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
PTCA（経皮的冠動脈形成術）等心臓手術の既往	2	0.2%	9	1.0%
ペースメーカー装着者	27	2.9%	34	3.7%
気管切開状態	1	0.1%	6	0.7%
透析	4	0.4%	9	1.0%
尿道カテーテル留置や人工膀胱状態	57	6.1%	23	2.5%
経鼻胃管や胃瘻等経管栄養状態	102	10.9%	23	2.5%
HBV キャリア（B型肝炎ウイルス持続感染者）	4	0.4%	2	0.2%
HCV キャリア（C型肝炎ウイルス持続感染者）	51	5.4%	26	2.8%
褥創	83	8.9%	41	4.5%
片麻痺	345	36.9%	606	65.8%
失語	148	15.8%	166	18.0%
片麻痺・失語以外の高次機能障害	97	10.4%	91	9.9%
認知症の周辺症状（BPSD）	450	48.1%	217	23.6%
せん妄	90	9.6%	34	3.7%
計	936	100.0%	921	100.0%

(7) 調査対象者の歩行・移動のスケール

①基本動作レベル

- ・入所者は、「レベル4：立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りは行っている」、「レベル5：両足で立位の保持を行っている」、「レベル1：寝返りは行っていない」が20%台となっており、比較的分散している。通所者は、「レベル5：両足で立位の保持を行っている」が51.8%と最も多く、ついで「レベル4：立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りは行っている」が30.6%で続いている。
- ・初回調査と比べると、入所者では「レベル1：寝返りは行っていない」が増加している。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	354	22.0%	944	51.8%
レベル4	478	29.8%	557	30.6%
レベル3	216	13.4%	154	8.5%
レベル2	190	11.8%	75	4.1%
レベル1	368	22.9%	92	5.0%
計	1,606	100.0%	1,822	100.0%

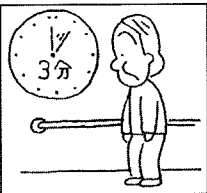
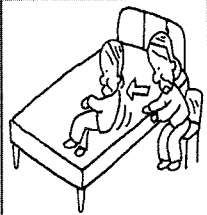
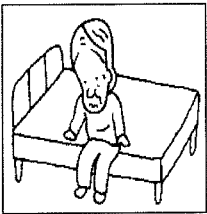
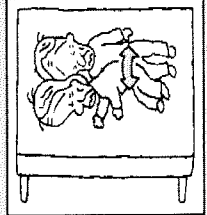

	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,564	N=1,606	N=1,760	N=1,822
レベル5	32.5%	22.0%	56.8%	51.8%
レベル4	30.4%	29.8%	30.0%	30.6%
レベル3	10.9%	13.4%	6.5%	8.5%
レベル2	9.3%	11.8%	3.2%	4.1%
レベル1	16.8%	22.9%	3.5%	5.0%

※基本動作レベル

	初回	今回
レベル5	立位の保持ができる	両足で立位の保持を行っている
レベル4	立位の保持はできないが、座位での乗り降り是可以	立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りは行っている
レベル3	座位での乗り降りはできないが、座位（端座位）の保持はできる	座位での乗り移りは行っていないが、座位（端座位）の保持は行っている
レベル2	座位（端座位）の保持はできないが、寝返りの変換と保持はできる	座位（端座位）の保持は行っていないが、寝返りは行っている
レベル1	寝返りの変換と保持はできない	寝返りは行っていない

基本動作のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問11(2)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	両足での立位の保持を行なっている	
立位の保持	つかまらずに一定の時間立位を保つこと	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	立位の保持は行なっていないが、座位での乗り移りは行なっている。	
座位での乗り移り	車椅子などからベッドへ移動する時のように、ある面に座った状態から、同等あるいは異なる高さの他の座面へと移動すること	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	座位での乗り移りは行なっていないが、座位(端座位)の保持は行なっている	
座位(端座位)の保持	ベッド等に、背もたれもなく“つかまらない”で、安定して座っていること(端座位)	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	座位(端座位)の保持は行なっていないが、寝返りは行なっている	
寝返り	寝返りをする事(つかまらず・つかまらないに関わらず)	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	寝返りは行なっていない	

②歩行・移動レベル

- ・入所者は「レベル2：安定した歩行は行っていないが、施設内の移動は行っている」が57.0%と6割近くを占めている。通所者は「レベル3：手すりに頼らない安定した階段の昇り降りを行っていないが、平らな場所での安定した歩行は行っている」が41.3%と最も多く、ついで「レベル2：安定した歩行は行っていないが、施設内の移動は行っている」が32.4%で続いている。
- ・初回調査と比較すると、入所者では「レベル2：安定した歩行は行っていないが、施設内の移動は行っている」、通所者では「レベル3：手すりに頼らない安定した階段の昇り降りを行っていないが、平らな場所での安定した歩行は行っている」の増加が目立っている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	17	1.1%	152	8.4%
レベル4	36	2.3%	191	10.6%
レベル3	322	20.2%	744	41.3%
レベル2	907	57.0%	584	32.4%
レベル1	309	19.4%	129	7.2%
計	1,591	100.0%	1,800	100.0%

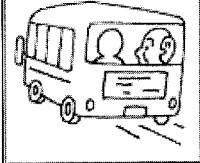
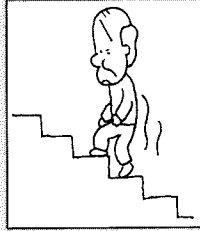
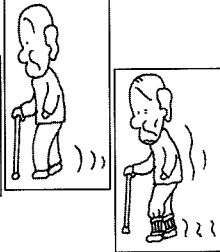
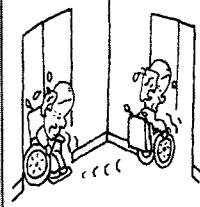
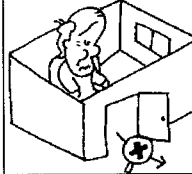
	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,507	N=1,591	N=1,720	N=1,800
レベル5	5.1%	1.1%	19.7%	8.4%
レベル4	5.9%	2.3%	14.0%	10.6%
レベル3	18.1%	20.2%	28.0%	41.3%
レベル2	47.8%	57.0%	30.1%	32.4%
レベル1	23.0%	19.4%	8.3%	7.2%

※歩行・移動レベル

	初回	今回
レベル5	外出ができる	公共交通機関等を利用した外出を行っている
レベル4	外出はできないが、昇り降り是可以	公共交通機関等を利用した外出は行っていないが、手すりに頼らないで安定した階段の昇り降りを行っている
レベル3	昇り降りはできないが、安定した歩行はできる	手すりに頼らない安定した階段の昇り降りは行っていないが、平らな場所での安定した歩行は行っている
レベル2	安定した歩行はできないが、施設内での移動はできる	安定した歩行は行っていないが、施設内の移動は行っている
レベル1	施設内での移動はできない	施設内の移動を行っていない

歩行・移動のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問11(3-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	公共交通機関等を利用した外出を行なっている	
外出状況	公共交通機関（バス・JR・飛行機等）を利用して外出する（杖等の補助具の使用の有無は問わない）	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	公共交通機関等を利用した外出は行なっていないが、手すりに頼らないで安定した階段の昇り降りを行なっている	
昇り降り	階段を5段以上“手すりに頼らず昇り降りする”こと	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	手すりに頼らない安定した階段の昇り降りを行なっていないが、平らな場所での安定した歩行を行なっている	
安定した歩行	安定した歩行をすること（杖と装具の双方を用いてもかまわない）	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	安定した歩行は行なっていないが、施設内の移動は行なっている	
施設内での移動	施設内で居室から別の部屋へと移動すること（車椅子など移動手段は問わない）	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	施設内の移動を行なっていない	

③移動手段

- ・入所者では「車椅子の利用」は68.7%が「あり」と多くなっている。通所者では「介助者や付き添いの必要」、「車椅子の利用」、「T字杖の利用」は5割前後が「あり」としている。
- ・初回調査と比較すると、通所者で「車椅子の利用」が「あり」とする人がやや増加している。

上段：回答数、下段：割合

	【入所者】			【通所者】		
	計	あり	なし	計	あり	なし
T字杖の利用	1,540	108	1,432	1,790	788	1,002
	100.0%	7.0%	93.0%	100.0%	44.0%	56.0%
装具（短下肢装具等）	1,535	55	1,480	1,770	307	1,463
	100.0%	3.6%	96.4%	100.0%	17.3%	82.7%
歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用	1,545	171	1,374	1,779	354	1,425
	100.0%	11.1%	88.9%	100.0%	19.9%	80.1%
しがみつき歩行器の利用（サークル歩行）	1,534	52	1,482	1,767	95	1,672
	100.0%	3.4%	96.6%	100.0%	5.4%	94.6%
車椅子の利用	1,576	1,082	494	1,794	811	983
	100.0%	68.7%	31.3%	100.0%	45.2%	54.8%
リクライニング式車椅子の利用	1,539	160	1,379	1,768	29	1,739
	100.0%	10.4%	89.6%	100.0%	1.6%	98.4%
介助者や付き添いの必要	1,553	789	764	1,789	931	858
	100.0%	50.8%	49.2%	100.0%	52.0%	48.0%

「あり」の割合	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
T字杖の利用	10.6%	7.0%	46.5%	44.0%
装具（短下肢装具等）	3.8%	3.6%	17.2%	17.3%
歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用	15.8%	11.1%	17.9%	19.9%
しがみつき歩行器の利用（サークル歩行）	5.8%	3.4%	5.2%	5.4%
車椅子の利用	65.0%	68.7%	38.2%	45.2%
リクライニング式車椅子の利用	5.0%	10.4%	0.7%	1.6%

(8) 調査対象者の認知機能スケール

① 認知機能～オリエンテーション(見当識)のレベル

- ・入所者は「レベル5：年月日がわかる」、「レベル3：場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰だかわかる」、「レベル2：その場にいる人が誰だかわからないが、自分の名前はわかる」が20%台と分散している。通所者は「レベル5：年月日がわかる」が半数強と多く、ついで「レベル4：年月日はわからないが、現在いる場所はわかる」が23.4%で続いている。
- ・初回調査と比較すると、入所者、通所者ともに「レベル5：年月日がわかる」が減少している。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	412	25.7%	1,013	55.6%
レベル4	282	17.6%	427	23.4%
レベル3	370	23.1%	198	10.9%
レベル2	368	23.0%	149	8.2%
レベル1	169	10.6%	36	2.0%
計	1,601	100.0%	1,823	100.0%

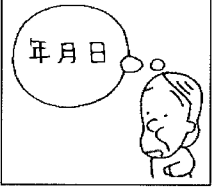

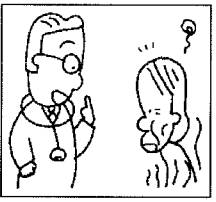


	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,538	N=1,601	N=1,748	N=1,823
レベル5	35.4%	25.7%	67.7%	55.6%
レベル4	10.5%	17.6%	12.5%	23.4%
レベル3	15.8%	23.1%	6.7%	10.9%
レベル2	30.5%	23.0%	12.1%	8.2%
レベル1	7.7%	10.6%	1.0%	2.0%

※認知機能～オリエンテーション(見当識)のレベル

	初回	今回
レベル5	時間・年月日がわかる	年月日がわかる
レベル4	時間・年月日はわからないが、場所の名称はわかる	年月日はわからないが、現在いる場所はわかる
レベル3	場所の名称はわからないが、他者に関することはわかる	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰だかわかる
レベル2	他者に関することはわからないが、自分の名前はわかる	その場にいる人が誰だかわからないが、自分の名前はわかる
レベル1	自分の名前がわからない	自分の名前がわからない

認知機能～オリエンテーション(見当識)のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問12(4-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	年月日がわかる	年月日 
年月日	年月日がわかるか (±1日の誤差)	わかる	↑	
		わからない	↓	
		4	年月日はわからないが、現在いる場所の種類はわかる	現在いる施設の名称 
場所の名称	現在いる場所の、種類がわかるか	わかる	↑	
		わからない	↓	
		3	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰かわかる	
他者に関する見当識	その場にいる人がだれかわかるか (例えば家族か、職員か、が判れば可)	わかる	↑	
		わからない	↓	
		2	その場にいる人が誰かわからないが、自分の名前はわかる	自分の名前 
自分の名前	自分の名前がわかるか	わかる	↑	
		わからない	↓	
		1	自分の名前がわからない	自分の名前 

②認知機能～コミュニケーションのレベル

- ・入所者は「レベル5：複雑な人間関係を保っている」から「レベル2：日常会話は行っていないが、話し言葉は理解している」までが20%台で分散している。通所者は「レベル5：複雑な人間関係を保っている」が半数強と多く、ついで「レベル4：複雑な人間関係は保っていないが、書き言葉は理解している」が21.5%で続いている。
- ・初回調査と比較すると、入所者、通所者ともに「レベル5：複雑な人間関係を保っている」が減少している。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	327	20.5%	979	53.7%
レベル4	370	23.1%	391	21.5%
レベル3	330	20.6%	222	12.2%
レベル2	361	22.6%	180	9.9%
レベル1	211	13.2%	50	2.7%
計	1,599	100.0%	1,822	100.0%

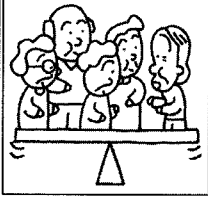
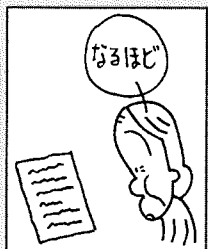
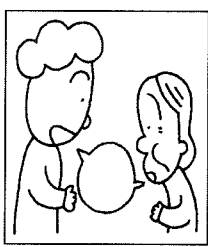
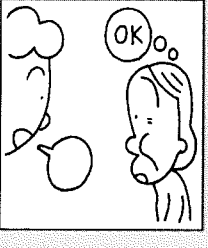
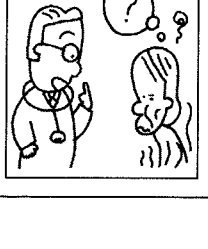

	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,544	N=1,599	N=1,744	N=1,822
レベル5	33.0%	20.5%	67.4%	53.7%
レベル4	19.9%	23.1%	13.8%	21.5%
レベル3	17.1%	20.6%	8.5%	12.2%
レベル2	17.6%	22.6%	7.8%	9.9%
レベル1	12.4%	13.2%	2.5%	2.7%

※認知機能～コミュニケーションのレベル

	初回	今回
レベル5	複雑な人間関係の理解保持できる	複雑な人間関係を保っている
レベル4	複雑な人間関係の理解保持できないが、書き言葉の受容はできる	複雑な人間関係は保っていないが、書き言葉は理解している
レベル3	書き言葉の受容はできないが、日常会話はできる	書き言葉は理解していないが、日常会話は行っている
レベル2	日常会話はできないが、話し言葉の理解はできる	日常会話は行っていないが、話し言葉は理解している
レベル1	話し言葉の理解はできない	話し言葉の理解はできない

認知機能～コミュニケーションのレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問12(4-b)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	複雑な人間関係を保っている	
複雑な人間関係の保持	様々な状況で、他者を理解し、他者が不快にならないように感情や衝動を抑え、常識に基づいて人間関係を保とうとすること (例) 普通の人間関係	保っている	↑	
		保っていない	↓	
		4	複雑な人間関係は保っていないが、書き言葉は理解している	
書き言葉の受容	書き言葉のメッセージを読みとり、理解している。	理解している	↑	
		理解していない	↓	
		3	書き言葉は理解していないが日常会話は行なっている	
日常会話	1対1で“違和感のない(適切でつじつまのあった)”対話や意見交換をすること (例) 日常の当たり前の会話；友人関係、日常生活、季節等	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	日常会話は行なっていないが話し言葉は理解している	
話し言葉の理解	スタッフや家族の話し言葉(音声言語)を理解すること (例) 例示の理解	理解している	↑	
		理解していない	↓	
		1	話し言葉の理解はできない	

③認知機能～精神活動のレベル

- ・入所者は「レベル2：記憶の再生はできないが、意識混濁はない」が33.7%と最も多い。
通所者は「レベル5：時間管理ができる」が56.2%と半数強を占めている。
- ・初回調査と比較すると、入所者、通所者ともに「レベル5：時間管理ができる」がかなり減少している。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	391	24.5%	1,018	56.2%
レベル4	260	16.3%	343	18.9%
レベル3	286	17.9%	187	10.3%
レベル2	538	33.7%	223	12.3%
レベル1	120	7.5%	42	2.3%
計	1,595	100.0%	1,018	100.0%

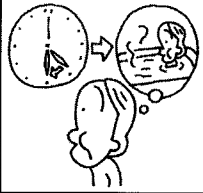
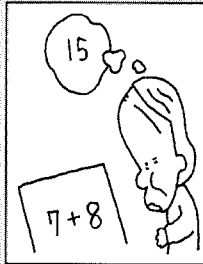

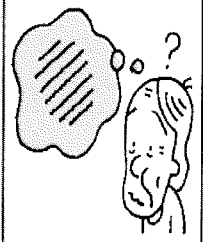
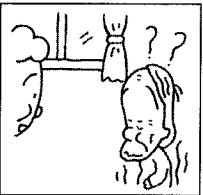
	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,541	N=1,595	N=1,757	N=1,813
レベル5	37.2%	24.5%	70.8%	56.2%
レベル4	20.2%	16.3%	14.2%	18.9%
レベル3	11.8%	17.9%	7.2%	10.3%
レベル2	27.5%	33.7%	6.9%	12.3%
レベル1	3.3%	7.5%	0.9%	2.3%

※認知機能～精神活動のレベル

	初回	今回
レベル5	時間管理はできる	時間管理ができる
レベル4	時間管理はできないが、簡単な算術計算はできる	時間管理はできないが、簡単な算術計算はできる
レベル3	簡単な算術計算はできないが、記憶の再生はできる	簡単な算術計算はできないが、記憶の再生はできる
レベル2	記憶の再生はできないが、意識混濁はなかった	記憶の再生はできないが、意識混濁はない
レベル1	意識の混濁があった	意識の混濁があった

認知機能～精神活動のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問12(4-c)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	時間管理ができる	
時間管理	現在の時刻がわかり、かつ一時間後に何をおこなうか理解し、普段から自分で管理している。	できる	↑	
		できない	↓	
		4	時間管理はできないが、簡単な算術計算はできる	
簡単な算術計算	7+8、6+5などの一桁同士の単純な加算ができるか。 ※おおむね7割程度正解すれば、できると判断する。	できる	↑	
		できない	↓	
		3	簡単な算術計算はできないが、記憶の再生はできる	
長期記憶	過去の自伝的な記憶について正しく、再生することができるか	できる	↑	
		できない	↓	
		2	記憶の再生はできないが、意識混濁はない	
意識状態	調査前24時間以内の起きていた時間帯に意識の混濁があったか	なかった	↑	
		あった	↓	
		1	意識の混濁があった	

④周辺症状

・周辺症状をみると、「B-5 同じことを何度も聞く」「A-1 世話を拒否する」「B-4 昼間、寝てばかりいる」の3項目について「ある」とする人が入所者では2割前後、通所者では1割前後みられる。

	【入所者】			【通所者】		
	計	ある	なし	計	ある	なし
A-1 世話を拒否する	1,588	315	1,273	1,811	163	1,648
	100.0%	19.8%	80.2%	100.0%	9.0%	91.0%
A-2 不適切に泣いたり笑ったりする	1,585	174	1,411	1,811	100	1,711
	100.0%	11.0%	89.0%	100.0%	5.5%	94.5%
A-3 興奮して手足を動かす	1,587	187	1,400	1,811	77	1,734
	100.0%	11.8%	88.2%	100.0%	4.3%	95.7%
A-4 理由なく金切り声をあげる	1,587	101	1,486	1,812	35	1,777
	100.0%	6.4%	93.6%	100.0%	1.9%	98.1%
A-5 衣服や器物を破壊する	1,581	45	1,536	1,812	14	1,798
	100.0%	2.8%	97.2%	100.0%	0.8%	99.2%
A-6 食物を投げる	1,583	26	1,557	1,812	8	1,804
	100.0%	1.6%	98.4%	100.0%	0.4%	99.6%
B-1 食べ過ぎる	1,581	62	1,519	1,813	76	1,737
	100.0%	3.9%	96.1%	100.0%	4.2%	95.8%
B-2 タンスの中身を全部出す	1,584	80	1,504	1,811	41	1,770
	100.0%	5.1%	94.9%	100.0%	2.3%	97.7%
B-3 日中屋外や屋内をうろつきまわる	1,585	134	1,451	1,812	94	1,718
	100.0%	8.5%	91.5%	100.0%	5.2%	94.8%
B-4 昼間、寝てばかりいる	1,582	300	1,282	1,811	195	1,616
	100.0%	19.0%	81.0%	100.0%	10.8%	89.2%
B-5 同じことを何度も聞く	1,589	326	1,263	1,813	248	1,565
	100.0%	20.5%	79.5%	100.0%	13.7%	86.3%
B-6 不適切な場所での排尿	1,583	48	1,535	1,811	25	1,786
	100.0%	3.0%	97.0%	100.0%	1.4%	98.6%

「ある」の割合	【入所者】		【通所者】	
	初 回	今 回	初 回	今 回
A-1 世話を拒否する	18.2%	19.8%	7.7%	9.0%
A-2 不適切に泣いたり笑ったりする	10.7%	11.0%	3.9%	5.5%
A-3 興奮して手足を動かす	10.9%	11.8%	3.4%	4.3%
A-4 理由なく金切り声をあげる	5.2%	6.4%	1.4%	1.9%
A-5 衣服や器物を破壊する	2.6%	2.8%	0.4%	0.8%
A-6 食物を投げる	1.4%	1.6%	0.5%	0.4%
B-1 食べ過ぎる	5.9%	3.9%	4.5%	4.2%
B-2 タンスの中身を全部出す	5.6%	5.1%	1.2%	2.3%
B-3 日中屋外や屋内をうろつきまわる	12.8%	8.5%	4.2%	5.2%
B-4 昼間、寝てばかりいる	19.2%	19.0%	10.2%	10.8%
B-5 同じことを何度も聞く	21.1%	20.5%	12.5%	13.7%
B-6 不適切な場所での排尿 (*)	54.0%	3.0%	19.4%	1.4%

*初回は「尿失禁する」と設問している

(9) 調査対象者の食事のスケール

①食事～嚥下機能のレベル

- ・入所者では「レベル5：肉などを含む普通の食事を、噛んで食べることを行っている」は44.6%と半数を切っている。一方、通所者は「レベル5：肉などを含む普通の食事を、噛んで食べることを行っている」が8割と多数を占めている。
- ・初回調査と比較すると、入所者、通所者ともに「レベル3：むせずに吸引することは行っていないが、固形物の嚥下は行っている」「レベル4：肉などを含む普通の食事を噛んで食べることは行っていないが、ストローなどでむせずに飲むことは行っている」が増加している。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	714	44.6%	1,449	79.6%
レベル4	320	20.0%	167	9.2%
レベル3	217	13.6%	114	6.3%
レベル2	235	14.7%	65	3.6%
レベル1	114	7.1%	26	1.4%
計	1,600	100.0%	1,821	100.0%

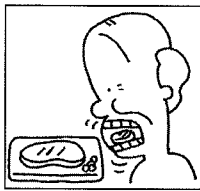

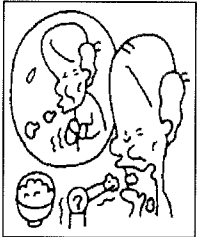
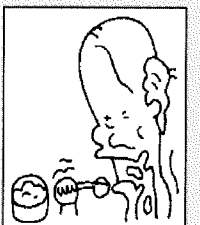

	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,561	N=1,600	N=1,756	N=1,821
レベル5	47.9%	44.6%	78.3%	79.6%
レベル4	37.1%	20.0%	19.0%	9.2%
レベル3	3.8%	13.6%	1.3%	6.3%
レベル2	8.4%	14.7%	0.9%	3.6%
レベル1	2.8%	7.1%	0.5%	1.4%

※食事～嚥下機能のレベル

	初回	今回
レベル5	固めの食事（肉等）を噛んで食べることができる	肉などを含む普通の食事を、噛んで食べることを行っている
レベル4	固めの食事（肉等）を噛んで食べることができないが、吸引はできる	肉などを含む普通の食事を噛んで食べることは行っていないが、ストローなどでむせずに飲むことは行っている
レベル3	吸引はできないが、固形物の嚥下はできる	むせずに吸引することは行っていないが、固形物の嚥下は行っている
レベル2	固形物の嚥下はできないが、嚥下食の嚥下はできる	固形物の嚥下は行っていないが、嚥下食の嚥下は行っている
レベル1	嚥下食の嚥下はできない	嚥下食の嚥下を行っていない（食べ物の嚥下を行っていない）

食事～嚥下機能のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問13(5-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	肉などを含む普通の食事を、嚥んで食べることを行なっている	
咬断 (固いもの)	肉などを含む普通の食事を嚥んで食べること	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	肉などを含む普通の食事を嚥んで食べることは行なっていないが、ストローなどでむせずに飲むことは行なっている。	
吸引	ストロー・吸い飲み等を使用して、水分・流動物をむせずに口腔内に吸引すること	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	むせずに吸引することは行なっていないが、固形物の嚥下は行なっている	
嚥下 (固形物)	嚥下(口内でつぶした)あるいは柔らかくした食べ物(普通食、粥食、軟食等)を、ノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	固形物の嚥下は行なっていないが、嚥下食の嚥下は行なっている	
嚥下 (嚥下食)	嚥下をしやすいように処理した食べ物(ペースト食やゼリー食)をノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	嚥下食の嚥下を行なっていない(食べ物の嚥下を行なっていない)	

②食事～食事動作および食事介助のレベル

- ・入所者では「レベル5：箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている」は46.5%と半数を切っている。一方、通所者は「レベル5：箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている」が73.1%と多くなっている。
- ・初回調査と比較すると、入所者で「レベル5：箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている」の大幅な減少が目立っている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	731	46.5%	1,316	73.1%
レベル4	380	24.2%	354	19.7%
レベル3	121	7.7%	45	2.5%
レベル2	223	14.2%	60	3.3%
レベル1	117	7.4%	26	1.4%
計	1,572	100.0%	1,801	100.0%


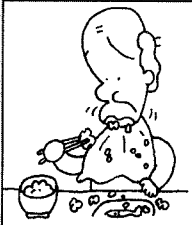



	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,539	N=1,572	N=1,752	N=1,801
レベル5	73.0%	46.5%	90.0%	73.1%
レベル4	13.9%	24.2%	6.4%	19.7%
レベル3	3.2%	7.7%	1.4%	2.5%
レベル2	6.9%	14.2%	1.8%	3.3%
レベル1	3.0%	7.4%	0.4%	1.4%

※食事～食事動作および食事介助

	初回	今回
レベル5	箸やフォークを使って適切に食べることができる	箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている
レベル4	箸やフォークを使って食べることができないが、食べこぼししながらも、何とか食べることはできる	箸やフォークを使って上手に食べることは行っていないが、食べこぼししながらも、何とか自分で食べることを行っている
レベル3	食べこぼししながらも食べることはできないため、食事の際のセッティングが必要である	自分で食べることを行っていないが、食事の際に特別なセッティングをすれば自分で食べることを行っている
レベル2	食事の際のセッティングをしても食べることはできないが、直接的な介助があれば食べることはできる	食事の際に特別なセッティングをしても自分で食べることを行っていないが、直接的な介助があれば食べることを行っている
レベル1	直接的な介助をしても食べることはできない	直接的な介助をしても食べることを行っていない（食べることを行っていない）

食事～食事動作および食事介助のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問13(5-b)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行なっている	
食べること	提供された食べ物を、箸やフォーク等を使って、食べこぼしなく上手に食べることに	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	箸やフォークを使って上手に食べることは行なっていないが、食べこぼししながらも、何とか自分で食べることを行なっている。	
食べこぼし	提供された食べ物を、“食べこぼしはあるが”、何とか自分で食べることに	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	自分で食べることを行なっていないが、食事の際に特別なセッティングをすれば自分で食べることを行なっている	
食事の際の特別なセッティング	姿勢や食べ物の位置の調整、摂食関連補助具の準備が必要である	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	食事の際に特別なセッティングをしても自分で食べることを行なっていないが、直接的な介助があれば食べることを行なっている	
食事の直接介助	食事の際に直接的な介助(食べさせる)が必要である(食事途中からの介助を含む)	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	直接的な介助をしても食べることを行なっていない(食べることを行なっていない)	

③食事の形態・性状

- ・入所者では「常食」と「きざみ食」がそれぞれ30%台となっている。通所者は「常食」が71.0%と多くなっている。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
常食	547	34.4%	1,290	71.0%
軟食	286	18.0%	263	14.5%
ソフト食	73	4.6%	31	1.7%
きざみ食	509	32.0%	217	11.9%
ミキサー食	124	7.8%	22	1.2%
ムース・ペースト食	59	3.7%	11	0.6%
その他	154	9.7%	41	2.3%
計	1,590	100.0%	1,818	100.0%

(10) 調査対象者の排泄のスケール

①排泄の動作のレベル

- ・入所者では「レベル2：洋式トイレの移乗が自分で行えないため、介助が必要、または普段から床上で排せつを行っている」が34.9%と最も多い。通所者は「レベル5：排泄の後始末を行っている」が57.9%と半数を超えている。
- ・初回調査と比較すると、入所者、通所者ともに「レベル5：排泄の後始末を行っている」が減少している。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	342	21.5%	1,046	57.9%
レベル4	263	16.6%	270	15.0%
レベル3	356	22.4%	311	17.2%
レベル2	554	34.9%	154	8.5%
レベル1	74	4.7%	25	1.4%
計	1,589	100.0%	1,806	100.0%

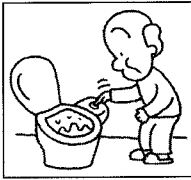

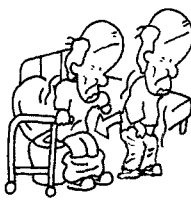

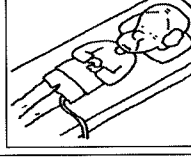
	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,421	N=1,589	N=1,711	N=1,806
レベル5	35.9%	21.5%	72.0%	57.9%
レベル4	38.2%	16.6%	21.3%	15.0%
レベル3	6.5%	22.4%	3.3%	17.2%
レベル2	5.2%	34.9%	1.3%	8.5%
レベル1	14.1%	4.7%	2.0%	1.4%

※排泄の動作のレベル

	初回	今回
レベル5	排尿の後始末ができる	排泄の後始末を行っている
レベル4	排尿の後始末はできないが、尿意を意識することはできる	排泄の後始末は行っていないが、ズボン・パンツの上げ下ろしは行っている
レベル3	尿意を意識することはできないが、ズボン・パンツの上げ降ろしはできる	ズボン・パンツの上げ下ろしは行っていないが、洋式便器への移乗は行っている
レベル2	ズボン・パンツの上げ降ろしはできないため、尿カテーテルや人工肛門を使用している	洋式トイレの移乗が自分で行えないため、介助が必要、または普段から床上で排せつを行っている
レベル1	尿カテーテルや人工肛門も使用できない	尿閉（膀胱瘻を含む）や褥瘡、医療的な身体管理のために膀胱等へのカテーテルを使用している

排泄の動作のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問14(6-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	排泄の後始末を行なっている	
排泄の後始末	排泄の後に種々の後始末をすること ※排泄後に拭く、水洗を流す、汚染した便器や周囲を拭く、ポータブルトイレの処理、尿器の処理等を含む	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	排泄の後始末は行なっていないが、スポン・パンツの上げ下ろしは行なっている	
スポンやパンツの上げ下ろし	排泄の際、スポン・パンツ等の上げ降ろしを自分ですること	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	スポン・パンツの上げ下ろしは行なっていないが、洋式便器への移乗は行なっている	
洋式便器への移乗	洋式便器への移乗と、洋式便器からの移乗	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	洋式トイレの移乗が自分で行えないため、介助が必要、または普段から床上で排泄を行なっている。	
床上での排泄	トイレへの移乗が行えないため、床上で排泄を行なっている。	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	尿閉(膀胱瘻を含む)や医療的な身体管理のために膀胱等へのカテーテルなどを使用している	

②補助具・器具の使用状況と尿意

・入所者では「おむつの使用」が「あり」が66.5%と約3分の2を占めている。

	【入所者】			【通所者】		
	計	あり (出来る)	なし (出来ない)	計	あり (出来る)	なし (出来ない)
ポータブルトイレの利用	1,571	295	1,276	1,789	262	1,527
	100.0%	18.8%	81.2%	100.0%	14.6%	85.4%
尿カテーテルの使用	1,568	70	1,498	1,800	31	1,769
	100.0%	4.5%	95.5%	100.0%	1.7%	98.3%
人工肛門の使用	1,567	9	1,558	1,802	13	1,789
	100.0%	0.6%	99.4%	100.0%	0.7%	99.3%
おむつの使用	1,584	1,053	531	1,800	504	1,296
	100.0%	66.5%	33.5%	100.0%	28.0%	72.0%
尿意を意識することができるか	1,599	943	656	1,820	1,592	228
	100.0%	59.0%	41.0%	100.0%	87.5%	12.5%
便意を意識することができるか	1,597	957	640	1,822	1,614	208
	100.0%	59.9%	40.1%	100.0%	88.6%	11.4%

(11) 調査対象者の入浴のスケール

①入浴動作のレベル

- ・入所者、通所者ともに「レベル3：第三者の援助なしで入浴することは行っていないが、一般浴室での坐位保持は行っている。その他、入浴に必要なさまざまな介助がなされている」が半数強を占めているが、入所者では「レベル2：浴室での坐位保持を行っておらず、一般浴での入浴を行っていないが、入浴（特浴など）は行っている」も36.4%と少なくない。
- ・初回調査と比較すると、通所者で「レベル5：安定した浴槽の出入りと洗身を行っている」が減少している。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	42	2.7%	280	15.5%
レベル4	77	4.9%	246	13.7%
レベル3	851	54.4%	1,011	56.1%
レベル2	570	36.4%	247	13.7%
レベル1	24	1.5%	17	0.9%
計	1,564	100.0%	1,801	100.0%

	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,530	N=1,564	N=1,734	N=1,801
レベル5	5.6%	2.7%	22.4%	15.5%
レベル4	7.6%	4.9%	15.0%	13.7%
レベル3	63.6%	54.4%	55.7%	56.1%
レベル2	23.1%	36.4%	6.1%	13.7%
レベル1	0.1%	1.5%	0.9%	0.9%

※入浴動作のレベル

	初回	今回
レベル5	安定した浴槽の出入りと洗身ができる	安定した浴槽の出入りと洗身を行っている
レベル4	安定した浴槽の出入りと洗身はできないが、第三者の援助なしで入浴することはできる	安定した浴槽の出入りと洗身は行っていないが、第三者の援助なしで入浴を行っている
レベル3	第三者の援助なしで入浴することはできないが、浴室での坐位保持はできる	第三者の援助なしで入浴することは行っていないが、一般浴室での坐位保持は行っている。その他、入浴に必要なさまざまな介助がなされている
レベル2	浴室での坐位保持はできないが、入浴の実施はしている	浴室での坐位保持を行っておらず、一般浴での入浴を行っていないが、入浴（特浴など）は行っている
レベル1	入浴の実施はしていない	入浴は行っていない

入浴動作のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問15(7-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	安定した浴槽の出入りと洗身を行っている	
安定した浴槽の出入りと洗身	一人で危なげなく浴槽に入り、身体を洗う等の浴室内動作も安定して（特に不安なく）普通に入浴を行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	安定した浴槽の出入りと洗身は行なっていないが、第三者の援助なしで入浴を行なっている	
第三者の援助なしで入浴	日頃の入浴や清潔の状態や皮膚の洗い残し等により、入浴の不十分さが認識されている。しかし、浴室内で第三者の援助は行われていない（自分でシャワー浴のみを行う場合を含む）	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	第三者の援助なしで入浴することは行なっていないが、一般浴室内での座位保持は行なっている。その他、入浴に必要なさまざまな介助がなされている	
浴室内での座位保持	浴室内での座位保持は安定しているが、見守り・指示・手を添える・洗身の不十分なところを手伝う程度の第三者の援助で入浴できている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	浴室内での座位保持を行なっておらず、一般浴での入浴を行なっていないが、入浴（特浴など）は行なっている	
入浴の実施	浴室内での座位保持が不安定（またはできない）で、入浴時には第三者の全面的な援助が必要である。特殊浴（機械浴）、車椅子浴、ネットを用いたリフト浴を含む	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	入浴は行なっていない	

②入浴手段

- ・入所者の入浴手段は「一般浴」、「介助浴」、「座っての機械浴」が20%台と分散している。
通所者は「一般浴」が51.7%と半数強を占め、ついで「介助浴」が29.2%で続いている。
- ・初回調査と比較すると、顕著な差はみられない。

	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
一般浴	435	27.3%	931	51.7%
介助浴	463	29.0%	526	29.2%
座っての機械浴	413	25.9%	292	16.2%
臥位での機械浴（特殊浴）	285	17.9%	52	2.9%
計	1,596	100.0%	1,801	100.0%

※複数回答

	【入所者】		【通所者】	
	初回	今回	初回	今回
	N=1,524	N=1,596	N=1,707	N=1,801
一般浴	31.5%	27.3%	50.3%	51.7%
介助浴	31.7%	29.0%	32.9%	29.2%
座っての機械浴	26.3%	25.9%	14.5%	16.2%
臥位での機械浴（特殊浴）	10.5%	17.9%	2.3%	2.9%

(12) 調査対象者の整容のスケール

①整容～口腔ケアのレベル

- ・入所者では「レベル4：義歯の手入れなどの口腔ケアは自分では行っていないが、歯みがきは自分でセッティングして行っている」が10.6%と少ないが、他のレベルはそれぞれ20%台と分散している。通所者は「レベル5：義歯の手入れなどの口腔ケアを自分で行っている」が53.3%と多くなっている。


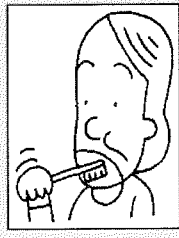
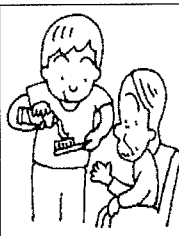



	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	363	22.6%	972	53.3%
レベル4	170	10.6%	230	12.6%
レベル3	385	24.0%	341	18.7%
レベル2	324	20.2%	179	9.8%
レベル1	361	22.5%	100	5.5%
計	1,603	100.0%	1,822	100.0%

※整容～口腔ケアのレベル

レベル5	義歯の手入れなどの口腔ケアを自分で行っている
レベル4	義歯の手入れなどの口腔ケアは自分では行っていないが、歯みがきは自分でセッティングして行っている
レベル3	自分でセッティングして歯を磨くことは行っていないが、セッティングをすれば、自分で歯みがきを行っている
レベル2	歯みがきのセッティングをしても自分では歯みがきを行っていないが、「うがい」は自分で行っている
レベル1	「うがい」を自分で行っていない

整容～口腔ケアのレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問16(8-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	義歯の手入れなどの口腔ケアを自分で行なっている	
口腔ケア	口唇の乾燥を防いだり、義歯の手入れなど、口腔ケアについては自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	義歯の手入れなどの口腔ケアは自分では行なっていないが、歯みがきは自分でセッティングして行なっている	
歯みがき	歯磨きを普段から自分でセッティングして行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	自分でセッティングして歯を磨くことは行なっていないが、セッティングをすれば、自分で歯みがきを行なっている	
歯みがきのセッティング	普段から、歯磨きのセッティングをすれば、自分で歯磨きを行う	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	歯みがきのセッティングをしても自分では歯みがきを行なっていないが、「うがい」は自分で行なっている	
うがい	「うがい」だけであれば自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	「うがい」を自分で行なっていない	

②整容～整容のレベル

- ・入所者では「レベル1：手洗いを自分で行っていない」が30.2%と最も多い。通所者では「レベル4：爪を切ることは自分で行っていないが、髭剃りやスキンケア、整髪は自分で行っている」が36.7%と最も多くなっている。





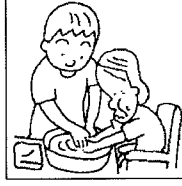
	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	89	5.5%	439	24.2%
レベル4	428	26.7%	667	36.7%
レベル3	368	22.9%	361	19.9%
レベル2	235	14.7%	214	11.8%
レベル1	484	30.2%	135	7.4%
計	1,604	100.0%	1,816	100.0%

※整容～整容のレベル

レベル5	爪を切ることを自分で行っている
レベル4	爪を切ることは自分で行っていないが、髭剃りやスキンケア、整髪は自分で行っている
レベル3	髭剃りやスキンケア、整髪は自分で行っていないが、洗顔が自分で行っている
レベル2	洗顔は自分で行っていないが、手洗いは自分で行っている
レベル1	手洗いを自分で行っていない

整容～整容のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問16(8-b)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	爪を切ることを自分で行なっている	
爪きり	手足のつめを切ることを普段から自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	爪を切ることは自分で行なっていないが、髭剃りやスキンケア、整髪は自分で行なっている	
髭そり・スキンケア・整髪	髭剃り（男性）やスキンケア（女性）、髪の毛を整えることを普段から自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	髭剃りやスキンケア、整髪は自分で行なっていないが、洗顔は自分で行なっている	
洗顔	洗顔（洗面台で、あるいは濡れたタオルで顔を拭くことを）を普段から自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	洗顔は自分で行なっていないが、手洗いは自分で行なっている	
手洗い	手洗いを普段から自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	手洗いを自分で行なっていない	

③整容～衣服の着脱のレベル

- ・入所者では「レベル1：上衣の片袖を通すことを自分で行っていない」が29.0%と約3割を占めている。通所者では「レベル5：衣服を畳んだり整理することは自分で行っている」、「レベル4：更衣を畳んだり整理することを自分で行っていないが、ズボンやパンツの着脱は自分で行っている」が3割前後となっている。






	【入所者】		【通所者】	
	回答数	割合	回答数	割合
レベル5	224	14.0%	647	35.6%
レベル4	264	16.5%	491	27.0%
レベル3	298	18.6%	259	14.3%
レベル2	349	21.8%	279	15.4%
レベル1	464	29.0%	141	7.8%
計	1,599	100.0%	1,817	100.0%

※整容～衣服の着脱のレベル

レベル5	衣服を畳んだり整理することは自分で行っている
レベル4	更衣を畳んだり整理することを自分で行っていないが、ズボンやパンツの着脱は自分で行っている
レベル3	ズボンやパンツの着脱を自分で行っていないが、更衣の際のボタンのかけはずしは自分で行っている
レベル2	更衣の際のボタンのかけはずしを自分で行っていないが、上衣の片袖を通すことは自分で行っている
レベル1	上衣の片袖を通すことを自分で行っていない

整容～衣服の着脱のレベル

最も状態が近いレベルの番号1つを選んで「問16(8-c)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	衣服を畳んだり整理することは自分で行なっている	
衣類の 整え	衣服を畳んだり整理することは自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	衣服を畳んだり整理することを自分で行っていないが、スボンやパンツの着脱は自分で行なっている	
スボンやパ ンツの着脱	スボン・パンツ等の着脱は自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	スボンやパンツの着脱を自分で行っていないが、更衣の際のボタンのかけはずしは自分で行なっている	
ボタンのか けはずし	更衣の際にボタンのかけはずしは自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	更衣の際のボタンのかけはずしを自分で行っていないが、上衣の片袖を通すことは自分で行なっている	
上衣の片袖 を通す	上衣の片袖を通すことは自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	上衣の片袖を通すことを自分で行っていない	

(13) 調査対象者の参加の状況

①余暇活動

- ・全体では、“テレビ視聴”、“集団でおこなう体操への参加”が80%と多く、ついで“新聞閲読”、“入所施設や介護事業者が主催する映画やコンサートへの参加”が40%台で続いている。

上段:回答数、下段:割合

	【全体】 N=3,449	【入所者】 N=1,613	【通所者】 N=1,836
テレビをみましたか	2,895 83.9%	1,191 73.8%	1,704 92.8%
集団でおこなう体操へ参加しましたか	2,797 81.1%	1,212 75.1%	1,585 86.3%
新聞をよみましたか	1,576 45.7%	454 28.1%	1,122 61.1%
入所施設や介護事業者が主催する映画やコンサート（スポーツや美術館など類似のレジャーも可）に参加しましたか	1,496 43.4%	774 48.0%	722 39.3%
個人で体操を行いましたか	1,226 35.5%	383 23.7%	843 45.9%
ラジオを聴きましたか	1,061 30.8%	240 14.9%	821 44.7%
趣味活動を自分から行いましたか	980 28.4%	309 19.2%	671 36.5%
公園や野外活動場に行きましたか	735 21.3%	243 15.1%	492 26.8%
施設外で買い物をしましたか	698 20.2%	127 7.9%	571 31.1%
入所施設や介護事業者以外が主催する映画やコンサート（スポーツや美術館など類似のレジャーも可）に参加しましたか	401 11.6%	156 9.7%	245 13.3%
施設内で買い物をしましたか	318 9.2%	156 9.7%	162 8.8%
旅行にいきましたか	207 6.0%	16 1.0%	191 10.4%

※数値は「行っている」の回答数と割合

②社会活動

・全体では、“投票への参加”と“墓参り・法事への参加”が20%台と多くなっている。

上段:回答数、下段:割合

	全体 N=3,449	入所者 N=1,613	通所者 N=1,836
(この1年間)公職選挙法における投票に参加しましたか(国会議員、県議、市議、首長選挙など)	947 27.5%	361 22.4%	586 31.9%
(この1年間)墓参り・法事に参加しましたか	757 21.9%	130 8.1%	627 34.2%
職業や家事など何か決まった役割がありますか	577 16.7%	86 5.3%	491 26.7%
宗教活動(墓参り・法事以外)への参加をしましたか	217 6.3%	38 2.4%	179 9.7%
(この1年間)結婚式その他の式典に参加されましたか	210 6.1%	26 1.6%	184 10.0%
地区会、地域センター、公民館活動に参加しましたか	130 3.8%	11 0.7%	119 6.5%
ボランティア等の社会活動を行いましたか	47 1.4%	12 0.7%	35 1.9%

※数値は「行っている」の回答数と割合

③交流

- ・全体では、“家族・親族との会話”が9割弱と最も多い。ついで、“親族による訪問”、“友人との会話”が続いている。

上段:回答数、下段:割合

	全体 N=3,449	入所者 N=1,613	通所者 N=1,836
家族・親族と会話をしましたか	3,096 89.8%	1,362 84.4%	1,734 94.4%
親族による訪問を受けましたか	2,692 78.1%	1,323 82.0%	1,369 74.6%
友人と会話をしましたか	1,728 50.1%	456 28.3%	1,272 69.3%
友人や親族と外出しましたか	1,276 37.0%	333 20.6%	943 51.4%
電話をしましたか	906 26.3%	195 12.1%	711 38.7%
友人による訪問を受けましたか	865 25.1%	195 12.1%	670 36.5%
近所つきあいをしましたか	725 21.0%	74 4.6%	651 35.5%
友人や親族の家への訪問を行いましたか	684 19.8%	129 8.0%	555 30.2%
手紙を書きましたか	285 8.3%	62 3.8%	223 12.1%

※数値は「行っている」の回答数と割合

Ⅲ. 介護老人保健施設における標準的診断名リストの作成

- ・今回の調査において、「診断名の標準化」を検討するために、ICDコードに準拠した16分類・78項目の診断名リストを作成し、主診断名（3つまで）をあげてもらった。その結果については、先にみた通りである。
- ・ここでは、16のICDコード分類のなかで“その他の疾患”として選択されたものについての具体的診断名と78項目の診断名リストにおいてほとんど回答がみられなかった診断名について検討を加え、追加・削除を行い、新たな診断名リストの作成を行った。

■新たな診断名リスト

ICDコード分類	現行		改定案	
	番号	診断名	番号	診断名
循環器系等の疾患	1	脳梗塞	1	脳梗塞
	2	脳出血	2	脳出血
	3	多発性脳梗塞	3	多発性脳梗塞
			4	くも膜下出血
			5	硬膜下血腫
			6	硬膜下血腫および脳挫傷
	4	その他の脳血管疾患	7	その他の脳血管疾患
	5	高血圧症(認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	8	高血圧症(認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)
	6	慢性心不全	9	慢性心不全
	7	心筋梗塞	10	心筋梗塞
	8	狭心症	11	狭心症
	9	不整脈	12	不整脈
		13	心房細動	
		14	その他の心疾患	
		15	閉塞性動脈硬化症	
		16	その他の中枢または末梢血管の疾患	
精神及び行動の障害	13	アルツハイマー型認知症	17	アルツハイマー型認知症
	14	脳血管性認知症	18	脳血管性認知症
	15	レビー小体型認知症	19	レビー小体型認知症
	16	下記以外の認知症 (脳血管性・アルツハイマー型・混合型・ レビー小体型・ピック病)	20	下記以外の認知症 (脳血管性・アルツハイマー型・混合型・ レビー小体型・ピック病)
	17	前頭・側頭葉型認知症(ピック病等)	21	前頭・側頭葉型認知症(ピック病等)
	18	混合型認知症	22	混合型認知症
	19	まだ確定診断のついていない認知症	23	まだ確定診断のついていない認知症
	20	うつ病	24	うつ病
			25	統合失調症
			26	その他の精神疾患
神経系の疾患	22	パーキンソン病	27	パーキンソン病
	23	パーキンソン病以外の脊髄小脳変性疾患	28	パーキンソン病以外の脊髄小脳変性疾患
			29	症候性てんかん、てんかん
	24	その他の中枢神経疾患	30	その他の中枢神経疾患
	25	末梢神経疾患	31	末梢神経疾患

ICDコード分類	現行	
	番号	診断名
内分泌、栄養及び代謝疾患	26	糖尿病(認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)
	27	栄養障害
	28	肥満
	29	その他の代謝・内分泌疾患
筋骨格系及び結合組織の疾患	30	脊髄損傷
	31	脊柱管狭窄症
	32	変形性脊椎症
	33	下肢の変形性関節症(股関節・膝関節)
	34	上肢の変形性関節症(肩関節・肘関節)
	35	大腿骨の骨折(手術を行った)
	36	大腿骨以外の骨折(手術を行った)
	37	骨折(保存的治療のみ)
	38	骨粗しょう症
	39	その他の骨・脊椎疾患
	40	関節リウマチ
41	関節リウマチ以外の全身性結合組織障害	
42	筋、軟部組織の障害	
呼吸器系の疾患	43	気管支喘息
	44	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患
	45	誤嚥性・吸引性(不顕性)肺炎などの慢性呼吸器感染症
	46	急性呼吸器感染症
	47	その他肺および胸膜など呼吸器の疾患
腎尿路生殖器系の疾患	48	腎不全(慢性・急性を含む)
	49	尿路結石症など尿路の疾患
	50	尿路感染症(膀胱炎など)
	51	女性生殖器・骨盤臓器の疾患
	52	前立腺肥大症などの男性生殖器の疾患
	53	乳房の障害
消化器系の疾患	54	口腔・唾液腺・顎の疾患
	55	胃・食道疾患
	56	小腸・大腸の疾患
	57	腹膜の疾患
	58	肝胆膵の疾患
	59	ヘルニア
	60	肛門の疾患
	61	その他の消化器の疾患
新生物	62	悪性新生物
	63	良性新生物
	64	その他特定されない新生物
眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患	65	緑内障・白内障などの眼およびその付属器の疾患
	66	耳および乳様突起の疾患

改定案	
番号	診断名
32	糖尿病(認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)
33	栄養障害
34	肥満
35	脂質異常症(高脂血症)
36	甲状腺機能障害
37	その他の代謝・内分泌疾患
38	脊髄損傷
39	脊柱管狭窄症
40	変形性脊椎症
41	下肢の変形性関節症(股関節・膝関節)
42	上肢の変形性関節症(肩関節・肘関節)
43	大腿骨の骨折(手術を行った)
44	大腿骨以外の骨折(手術を行った)
45	骨折(保存的治療のみ)
46	骨粗しょう症
47	圧迫骨折
48	後縦靭帯骨化症
49	その他の骨・脊椎疾患
50	関節リウマチ
51	関節リウマチ以外の全身性結合組織障害
52	筋、軟部組織の障害
53	気管支喘息
54	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患
55	誤嚥性・吸引性(不顕性)肺炎などの慢性呼吸器感染症
56	急性呼吸器感染症
57	その他肺および胸膜など呼吸器の疾患
58	腎不全(慢性・急性を含む)
59	尿路結石症など尿路の疾患
60	尿路感染症(膀胱炎など)
61	乳房・女性生殖器・骨盤臓器の疾患
62	前立腺肥大症などの男性生殖器の疾患
	(削除)
	(削除)
63	胃・食道疾患
64	小腸・大腸の疾患
	(削除)
65	肝胆膵の疾患
66	ヘルニア
67	肛門の疾患
68	その他の消化器の疾患(腹膜、口腔、唾液腺、顎等を含む)
69	悪性新生物
	(削除)
70	良性新生物およびその他特定されない新生物
71	緑内障・白内障などの眼およびその付属器の疾患
72	耳および乳様突起の疾患

ICDコード分類	現行		改定案	
	番号	診断名	番号	診断名
皮膚及び皮下組織の疾患	67	疥癬・蜂窩織炎・白癬等感染症	73	疥癬・蜂窩織炎・白癬等感染症
	68	水疱症(天疱瘡・類天疱瘡等)	74	水疱症(天疱瘡・類天疱瘡等)
	69	アレルギー性皮膚疾患	75	アレルギー性皮膚疾患
	70	褥創	76	褥創
	71	皮膚の切創などの外傷		(削除)
	72	その他の皮膚疾患	77	皮膚の外傷およびその他の皮膚疾患
	73	感染症	78	感染症
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	74	貧血	79	貧血
	75	貧血以外の血液・免疫および凝固系の疾患	80	貧血以外の血液・免疫および凝固系の疾患
周産期に発生した病態	76	周産期や小児期の疾患の後遺症	81	周産期や小児期の疾患の後遺症(脳性麻痺、精神発達遅滞を含む)
先天奇形、変形及び染色体異常	77	先天奇形・変形および染色体異常	82	先天奇形・変形および染色体異常
損傷、中毒及びその他の外因の影響	78	損傷、中毒及びその他の外因の影響	83	損傷、中毒及びその他の外因の影響

・なお、16のICDコード分類のなかでの“その他の疾患”としてあげられた具体的な診断名は以下の通りである。

■その他の診断名

□循環器系の疾患

【その他の脳血管疾患】N=138		件数
1	くも膜下出血	38
2	硬膜下血腫	18
3	脳梗塞・脳梗塞後遺症	11
4	脳挫傷・脳挫傷後遺症	8
5	脳動脈瘤	8
6	脳内出血	7
7	水頭症	6
8	てんかん	5
9	脳血管障害・脳血管障害後遺症	4
10	脳血栓・脳血栓後遺症	3
11	脳腫瘍	3
12	脳内出血	3
13	パーキンソン症候群	3
14	もやもや病	2
15	一過性脳虚血	2
16	心原性脳塞栓症	2
17	脳動脈硬化症	2
18	その他	13

【その他の心疾患】N=198		件数
1	心房細動	69
2	虚血性心疾患	24
3	心不全・うっ血性心不全	23
4	高血圧・高血圧症	13
5	房室ブロック	8
6	僧帽弁疾患	7
7	洞不全症候群	5
8	連合弁膜症	4
9	大動脈瘤及び解離	4
10	心筋症	3
11	高血圧性心疾患	3
12	心室性期外収縮	3
13	心臓弁膜症	3
14	心肥大	3
15	大動脈弁疾患	2
16	その他	24

【その他の中枢または末梢血管の疾患】N=59		件数
1	高血圧症	12
2	大動脈瘤	7
3	水痘症	4
4	静脈血栓症	4
5	てんかん	3
6	脳血管障害	2
7	高コレステロール血症	2
8	その他	25

□精神及び行動の障害

【その他の精神疾患(統合失調症を含む)】N=85		件数
1	統合失調症	19
2	アルコール依存症	8
3	老年期精神病・老年期精神障害	8
4	不安障害・不安神経障害	5
5	不安神経症	5
6	妄想性障害	4
7	器質性精神障害	4
8	不眠症	3
9	心因反応	3
10	非定型精神病	2
11	その他	24

□神経系の疾患

【その他の中枢神経疾患】N=36		件数
1	症候性てんかん・てんかん	11
2	パーキンソン症候群	6
3	神経根症(腰部)	2
4	中枢神経疾患	2
5	めまい	2
6	頸髄症	2
7	その他	10
-	無回答	1

□内分泌、栄養及び代謝疾患

【その他の代謝・内分泌疾患】N=95		件数
1	高脂(質)血症	29
2	甲状腺障害	25
3	糖尿病	20
4	痛風	5
5	バセドウ病	2
6	その他	12
-	無回答	2

□筋骨格系及び結合組織の疾患

【その他の骨・脊柱疾患】N=143		件数
1	圧迫骨折（胸椎）	24
2	変形性頸椎症	14
3	腰痛・腰痛症	11
4	後縦靭帯骨化症	9
5	頸椎症性脊髄症	11
6	椎間板ヘルニア	9
7	頸椎症・頸髄症	8
8	腰椎すべり症	6
9	化膿性関節炎	4
10	頸椎損傷	4
11	関節炎・関節周囲炎	3
12	腰椎椎間板症	3
13	脊髄炎	3
14	亜脱臼	2
15	腰椎症	2
16	脊髄梗塞	2
17	廃用性症候群	2
18	変形性膝関節症	2
19	その他	23
-	無回答	1

※複数回答

□呼吸器系の疾患

【その他肺および胸膜など呼吸器の疾患】N=39		件数
1	気管支炎	10
2	肺結核	6
3	肺炎・間質性肺炎	3
4	肺血栓塞栓症	3
5	気管支拡張症	2
6	肺がん	2
7	その他	12
-	無回答	1

□消化器系の疾患

【その他の消化器の疾患】N=35		件数
1	便秘症	8
2	逆流性食道炎	5
3	十二指腸潰瘍	4
4	胃潰瘍	3
5	腸閉塞	2
6	その他	12
-	無回答	1

□新生物

【その他特定されない新生物】N=5

右後頭葉脳腫瘍、脳腫瘍、脳腫瘍、左乳癌、右眼失明。

□皮膚及び皮下組織の疾患

【その他の皮膚疾患】N=17

その他の皮膚疾患、ボーエン氏症（切除術）、乾癬、魚鱗癬、強皮症、強皮症、左耳下腺腫瘍、左半身熱傷痕、紫斑症、脂漏性角化症、脂漏性湿疹、腫瘍性乾癬、水疱性類天疱瘡、帯状疱疹後の痛み、皮膚?痒症、慢性湿疹、両下肢皮膚潰瘍。

IV. 老健利用者の状態像の変化にかかわる因子の分析と考察

1. 分析の概要

(1) ロジスティック回帰分析の援用

状態像の変化にかかわる分析を行うにあたって、ここでは医療・看護・福祉分野で要因分析手法として活用されているロジスティック回帰分析手法(ステップワイズ法)を援用した。

具体的には、初回調査から今回調査の約2年間において、状態像が「悪化」したグループと「維持・改善」グループの2つのグループに分け、悪化の要因としてどのような要因が影響を及ぼしているのかの分析を行った。

(2) 目的変数の設定

目的変数については、以下の4つの変数を用いた。分析は、入所者・通所者合計、入所者、通所者の3ケースについて行っている。なお、「悪化」の規定については初回調査よりレベルがひとつでも低下していることとした。

①基本動作にかかわる状態像の変化

		今回調査				
		両足で立位の保持を行っている	立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りは行っている	座位での乗り移りは行っていないが、座位(端座位)の保持は行っている	座位(端座位)の保持は行っていないが、寝返りは行っている	寝返りは行っていない
初回調査	立位の保持ができる					
	立位の保持はできないが、座位での乗り降りができる				悪化グループ	
	座位での乗り降りはできないが、座位(端座位)の保持はできる					
	座位(端座位)の保持はできないが、寝返りの変換と保持はできる	維持・改善グループ				
	寝返りの保持はできない					

②歩行・移動にかかる状態像の変化

		今回調査				
		公共交通機関等を利用した外出を行っている	公共交通機関等を利用した外出は行っていないが、手すりに頼らないで安定した階段の昇り降りを行っている	手すりに頼らない安定した階段の昇り降りを行っていないが、平らな場所での安定した歩行を行っている	安定した歩行は行っていないが、施設内の移動は行っている	施設内の移動を行っていない
初回調査	外出ができる					
	外出はできないが、昇り降りができる				悪化グループ	
	昇り降りはできないが、安定した歩行はできる					
	安定した歩行はできないが、施設内での移動はできる	維持・改善グループ				
	施設内での移動はできない					

③認知機能～オリエンテーションレベルにかかる状態像の変化

		今回調査				
		年月日がわかる	年月日はわからないが、現在いる場所はわかる	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰だかわかる	その場にいる人が誰だかわからないが、自分の名前はわかる	自分の名前がわからない
初回調査	時間・年月日がわかる					
	時間・年月日はわからないが、場所の名称はわかる				悪化グループ	
	場所の名称はわからないが、他者に関することはわかる					
	他者に関することはわからないが、自分の名前はわかる	維持・改善グループ				
	自分の名前がわからない					

④認知機能～精神活動レベルにかかる状態像の変化

		今回調査				
		時間管理 ができる	時間管理 はできない が、簡単な 算術計算 はできる	簡単な算 術計算は できない が、記憶の 再生はでき る	記憶の再 生はできな いが、意識 混濁はな い	意識の混 濁があった
初回調査	時間管理はできる					
	時間管理はできないが、簡単な算術計算はできる				悪化グループ	
	簡単な算術計算はできないが、記憶の再生はできる					
	記憶の再生はできないが、意識混濁はなかった	維持・改善グループ				
	意識の混濁があった					

(3) 目的変数の性別及び平均年齢

各目的変数の性別及び平均年齢は以下の通りであった。

基本動作レベルの悪化率は、入所者 33.4% (514 人)、通所者 22.5% (390 人) であり、合計では 27.6% (904 人) であった。なお、悪化グループの女性比率は入所者 82.1%、通所者は 53.1% であり、平均年齢は入所者 87.0 歳、通所者 80.8 歳であった。

歩行・移動レベルの悪化率は、入所者 29.3% (334 人)、通所者 32.7% (546 人) であり、合計では 28.0% (880 人) であった。なお、悪化グループの女性比率は入所者 79.9%、通所者は 53.8% であり、平均年齢は入所者 85.9 歳、通所者 81.7 歳であった。

認知機能～オリエンテーションレベルの悪化率は、入所者 28.3% (428 人)、通所者 22.0% (379 人) であり、合計では 25.0% (807 人) であった。なお、悪化グループの女性比率は入所者 79.7%、通所者は 57.8% であり、平均年齢は入所者 86.4 歳、通所者 82.8 歳であった。

認知機能～精神活動レベルの悪化率は、入所者 39.3% (593 人)、通所者 28.9% (498 人) であり、合計では 33.8% (1091 人) であった。なお、悪化グループの女性比率は入所者 77.6%、通所者は 59.6% であり、平均年齢は入所者 86.6 歳、通所者 82.9 歳であった。

		入所者・通所者合計				入所者				通所者			
		計	男性	女性	平均年齢	計	男性	女性	平均年齢	計	男性	女性	平均年齢
基礎動作 レベル	計	100.0	32.0	68.0	83.0	100.0	20.2	79.8	85.6	100.0	42.4	57.6	80.7
		3275	1047	2228		1541	312	1229		1734	735	999	
	維持・改善 グループ	100.0	32.6	67.4	82.5	100.0	21.4	78.6	85.0	100.0	41.1	58.9	80.7
	悪化グループ	100.0	30.4	69.6	84.3	100.0	17.9	82.1	87.0	100.0	46.9	53.1	80.8
		904	275	629		514	92	422		390	183	207	
歩行・移 動レベル	計	100.0	32.1	67.9	83.1	100.0	20.4	79.6	85.7	100.0	42.4	57.6	80.7
		3144	1010	2134		1472	301	1171		1672	709	963	
	維持・改善 グループ	100.0	30.5	69.5	83.0	100.0	20.6	79.4	85.7	100.0	40.6	59.4	80.2
	悪化グループ	100.0	36.3	63.8	83.3	100.0	20.1	79.9	85.9	100.0	46.2	53.8	81.7
		880	319	561		334	67	267		546	252	294	
認知機能 ～オリエ ンテーシ ョンレ ベル	計	100.0	32.0	68.0	83.0	100.0	20.0	80.0	85.7	100.0	42.5	57.5	80.7
		3234	1035	2199		1510	302	1208		1724	733	991	
	維持・改善 グループ	100.0	32.5	67.5	82.5	100.0	19.9	80.1	85.4	100.0	42.6	57.4	80.1
	悪化グループ	100.0	30.6	69.4	84.7	100.0	20.3	79.7	86.4	100.0	42.2	57.8	82.8
		807	247	560		428	87	341		379	160	219	
認知機能 ～精神活 動レ ベル	計	100.0	32.3	67.7	83.0	100.0	20.1	79.9	85.7	100.0	43.0	57.0	80.6
		3231	1044	2187		1509	304	1205		1722	740	982	
	維持・改善 グループ	100.0	33.2	66.8	82.0	100.0	18.7	81.3	85.1	100.0	44.0	56.0	79.7
	悪化グループ	100.0	30.6	69.4	84.9	100.0	22.4	77.6	86.6	100.0	40.4	59.6	82.9
		1091	334	757		593	133	460		498	201	297	

注) 上段：構成比、下段人数

(4) 分析に用いた説明変数

分析に用いた説明変数は、初回調査の以下の項目を用いた。

■説明変数一覧			
変数名	変数内容	変数の尺度	カテゴリーの意味
NO8	入所・通所区分	質的	1:入所 2:通所
NO9	性別	質的	1:男性 2:女性
NO10	年齢	(量的)	連続変数
NO11	要介護度	(量的)	連続変数
NO12	障害高齢者自立度	(量的)	連続変数
NO13	認知症高齢者自立度	(量的)	連続変数
NO14S1	1 脳疾患・神経疾患(脳血管性認知症を含む)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO14S2	2 心疾患	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO14S3	3 呼吸器疾患	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO14S4	4 腎疾患・泌尿器・婦人科疾患	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO14S5	5 代謝・内分泌疾患	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO14S6	6 骨・筋疾患	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO14S7	7 精神疾患(アルツハイマー病及び混合型認知症を含む)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO14S8	8 消化器系疾患	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO15	過去半年間変化a転倒	質的	1:あった 0:ない
NO16	過去半年間変化b脱水	質的	1:あった 0:ない
NO17	過去半年間変化c褥瘡の出現	質的	1:あった 0:ない
NO18	過去半年間変化d発熱	質的	1:あった 0:ない
NO19	過去半年間変化e誤嚥	質的	1:あった 0:ない
NO21	過去一年間変化g転んだことがある	質的	1:あった 0:ない
NO22	過去一年間変化h背中が丸くなった	質的	1:あった 0:ない
NO23	過去一年間変化i歩く速度が遅くなった	質的	1:あった 0:ない
NO24	過去一年間変化j杖を使っている	質的	1:あった 0:ない
NO25	過去一年間変化k5種類以上の薬を飲む	質的	1:あった 0:ない
NO26S1	医療区分3	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO26S2	医療区分2	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO26S3	医療区分1(重度側)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO26S4	医療区分1(軽度側)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO26S5	変調をきたした外来診療レベル	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO26S6	安定した外来診療レベル	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO26S7	無疾患、健康	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO27	在宅復帰阻害要因の有無	質的	1:ある 0:ない
NO28S0	在宅復帰への調整ニーズ(在宅復帰が前提で、ほぼ問題なし)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO28S1	在宅復帰への調整ニーズ(ある程度支援を行えば在宅復帰が可能)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO28S2	在宅復帰への調整ニーズ(高度な支援を行えば在宅復帰が可能)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO28S3	在宅復帰への調整ニーズ(特養等の施設に移ることが前提)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO29	家族のレスパイト	質的	1:必要 0:不要
NO30S0	終末期ケアのニーズ(意思表示なし)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO30S1	終末期ケアのニーズ(自宅)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO30S2	終末期ケアのニーズ(施設)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO30S3	終末期ケアのニーズ(病院)	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO31	退所後のショート利用	質的	1:ある 0:ない
NO32S0	リハビリテーションによる維持・改善見込みはない	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO32S1	リハビリテーションによる機能維持が可能	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO32S2	リハビリテーションによる改善が可能	質的	1:該当あり 0:該当なし
NO33	医学的ケアのニーズ	質的	0:特別なニーズはない 1:老健で対応可
NO34	認知症へのケア	質的	0:特に必要ない 1:老健で対応可
NO35	栄養ケア	質的	0:特に問題ない 1:老健で対応可
NO36	リハビリテーションのニーズ:本人の要望	質的	1:ある 0:ない
NO37	リハビリテーションのニーズ:家族の要望	質的	1:ある 0:ない
NO38	リハビリの予後予測:回復の見込み	質的	1:見込める 0:見込めない
NO39	リハビリの予後予測:維持の見込み	質的	1:見込める 0:見込めない
NO71	A-1世話を拒否	質的	1:ある 0:ない
NO72	A-2不適切な泣き笑い	質的	1:ある 0:ない
NO73	A-3興奮して手足を動かす	質的	1:ある 0:ない
NO74	A-4金切り声をあげる	質的	1:ある 0:ない
NO75	A-5衣服等を破壊	質的	1:ある 0:ない
NO76	A-6食物を投げる	質的	1:ある 0:ない
NO77	B-1食べ過ぎる	質的	1:ある 0:ない
NO78	B-2タンスの中身を出す	質的	1:ある 0:ない
NO79	B-3日中屋内外をうろつく	質的	1:ある 0:ない
NO80	B-4昼間寝てばかりいる	質的	1:ある 0:ない
NO81	B-5同じことを何度も聞く	質的	1:ある 0:ない
NO82	B-6尿失禁する	質的	1:ある 0:ない
NO83	咬断(固いもの)	質的	1:できない 0:できる
NO84	吸引	質的	1:できない 0:できる
NO85	嚥下(固形物)	質的	1:できない 0:できる
NO86	嚥下(嚥下食)	質的	1:できない 0:できる
NO88	食べること	質的	1:できない 0:できる
NO89	食べこぼし	質的	1:できない 0:できる
NO90	食事の際のセッティング	質的	1:必要 0:不要
NO91	食事の直接介助	質的	1:必要 0:不要
NO93	排泄の後始末	質的	1:できない 0:できる

2. 分析結果

(1) 基本動作にかかる状態像の変化

基本動作にかかる状態像の変化についてのロジスティック回帰分析結果は以下の通りである。

■入所者・通所者合計

- 女性に比べ男性のほうが悪化につながりやすく、年齢の上昇や認知症高齢者自立度の低下が悪化につながっている。男性よりも女性が維持傾向にあることはこれまでさまざまな報告にある通りであり、これが女性の入所者の増加につながっていると考えられる。
- 過去半年間に転倒の経験がある場合は、悪化リスクにつながっている。転倒の割合は入所で 30%、通所で 36%であり、これまでの外の研究班で行われた調査より若干割合が増えている。
- 在宅復帰の阻害要因がある場合や調査者によるリハビリテーションの予後予測として回復が見込めない場合は悪化につながっていた。一方で、リハビリテーションによる維持・改善見込みが「ある」場合、維持改善につながるとの結果になっている。
- このほか、排泄の際、ズボン・パンツ等の上げ降ろしの両方を自分ですることができない場合や安定した浴槽の出入りと洗身ができない場合も悪化につながりやすくなっている。これらは基本動作レベルのうち、座位保持と同等と考えられた。
- なお、栄養過多または過少などによる栄養調整ニーズには老健内で対応できる場合は、維持改善につながっていた。
- 嚥下しやすいように処理した食べ物を飲み込むことができたり、提供された食べ物を食べこぼしがあってもなんとか食べることができる場合、維持改善につながるとの結果になっていた。嚥下機能の維持が基本動作の維持にも関係していることが示唆された。

■入所者・通所者合計（分析対象数：1,282）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO9	性別	2:女性 1:男性	0.693	0.516	0.930
NO10	年齢	連続変数	1.027	1.010	1.044
NO13	認知症高齢者自立度	連続変数	1.128	1.040	1.224
NO15	過去半年間変化(転倒)	1:あった 0:ない	1.370	1.056	1.778
NO27	在宅復帰阻害要因の有無	1:ある 0:ない	1.544	1.154	2.064
NO32S0	リハビリテーションによる維持・改善見込みはない	1:該当あり 0:該当なし	0.557	0.315	0.987
NO35	栄養ケア	1:老健で対応可 0:特に問題ない	0.684	0.518	0.904
NO38	リハビリの予後予測:回復の見込み	1:見込める 0:見込めない	0.716	0.543	0.943
NO86	嚥下(嚥下食)	1:できない 0:できる	0.203	0.045	0.914
NO89	食べこぼし	1:できない 0:できる	0.502	0.279	0.905
NO95	ズボン・パンツの上げ降ろし	1:できない 0:できる	1.382	1.042	1.834
NO98	安定した浴槽の出入りと洗身	1:できない 0:できる	2.338	1.474	3.709

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	1463.929	1269	1.1536	0.0001
Pearson	1284.548	1269	1.0123	0.3743

■入所者

- 年齢の上昇や過去半年間に転倒の経験は悪化リスクであった。
- 医療区分3などの場合は悪化要因となっていた。
- リハビリテーションによる維持・改善見込みがある場合には改善していた。
- 嚥下しやすいように処理した食べ物を飲み込むことができる場合は維持改善につながるなどの結果になっている。

■入所者（分析対象数：787）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO10	年齢	連続変数	1.033	1.013	1.054
NO15	過去半年間変化(転倒)	1:あった 0:ない	1.810	1.318	2.485
NO26S1	医療区分3	1:該当あり 0:該当なし	9.689	1.467	63.966
NO32S0	リハビリテーションによる維持・改善見込みはない	1:該当あり 0:該当なし	0.462	0.252	0.849
NO86	嚥下(嚥下食)	1:できない 0:できる	0.069	0.009	0.559

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	947.909	781	1.2137	<.0001
Pearson	783.886	781	1.0037	0.4642

■通所者

- 女性に比べ男性のほうが悪化につながりやすく、障害高齢者自立度の低下が悪化につながるとの結果になっている。これは、これまでの報告と類似である。
- 主な疾患が骨・筋疾患である場合には悪化していた。
- 今回の調査では家族のレスパイトが必要なケースは悪化していた。家族要因との関係は不明である。
- 第三者の援助なしで入浴できない場合は悪化要因となっている。これは座位保持ができると維持改善を示した全体調査の結果とほぼ同様であると考えられた。
- なお、栄養過多または過少などによる栄養調整ニーズには老健内で対応できる場合や提供された食べ物を食べこぼしがあってもなんとか食べることができる場合、維持改善につながるとの結果になっている。これは全体(入所および通所)の結果と同様であった。

■通所者 (分析対象数：495)

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO9	性別	2:女性 1:男性	0.487	0.306	0.775
NO12	障害高齢者自立度	連続変数	1.399	1.174	1.667
NO14S6	主な疾患(骨・筋疾患)	1:該当あり 0:該当なし	2.060	1.088	3.899
NO26S2	医療区分 2	1:該当あり 0:該当なし	0.267	0.087	0.822
NO29	家族のレスパイト	1:必要 0:不要	1.716	1.038	2.839
NO35	栄養ケア	1:老健で対応可 0:特に問題ない	0.420	0.223	0.790
NO89	食べこぼし	1:できない 0:できる	0.231	0.057	0.937
NO99	第三者の援助なしで入浴	1:できない 0:できる	3.254	1.703	6.217

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	476.533	486	0.9805	0.6119
Pearson	482.207	486	0.9922	0.5401

(2) 歩行・移動にかかる状態像の変化

歩行・移動にかかる状態像の変化についてのロジスティック回帰分析結果は以下の通りである。

■入所者・通所者合計

- 主な疾患が呼吸器疾患の場合悪化傾向が認められた。呼吸器疾患はこれまであまり報告がなく、今後詳細を明らかにしていく必要があると考えられた。また、認知機能の精神活動の項目として同じことを何度も聞くといった項目は悪化につながるとの結果になっている。
- 他方、障害高齢者自立度が高いことや、排泄の際、ズボン・パンツ等の上げ降ろしの両方を自分ですることができる、安定した浴槽の出入りと洗身ができる場合、維持改善につながるとの結果になっている。これは座位保持が機能維持上重要であることを示唆していると考えられた。

■入所者・通所者合計（分析対象数：1,226）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO12	障害高齢者自立度	連続変数	0.745	0.664	0.837
NO14S3	主な疾患(呼吸器疾患)	1:該当あり 0:該当なし	3.464	1.254	9.572
NO81	同じことを何度も聞く	1:ある 0:ない	1.704	1.201	2.418
NO89	食べこぼし	1:できない 0:できる	0.158	0.038	0.661
NO95	ズボン・パンツの上げ降ろし	1:できない 0:できる	0.527	0.355	0.782
NO98	安定した浴槽の出入りと洗身	1:できない 0:できる	0.654	0.445	0.961
NO103S3	入浴手段(座っての機械浴)	1:該当あり 0:該当なし	0.587	0.373	0.922

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	1191.095	1218	0.9779	0.7039
Pearson	1238.852	1218	1.0171	0.3323

■入所者

- 認知機能の精神活動の項目として同じことを何度も聞くといった項目は悪化につながるとの結果になっている。
- おもな疾患が代謝・内分泌疾患であったり、ストロー・吸い飲み等を使用して、水分・流動物を吸引できる、排泄の際、ズボン・パンツ等の上げ降ろしの両方を自分ですることができる、第三者の援助なしで入浴できるなどは、維持改善につながるとの結果になっている。

■入所者（分析対象数：753）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO14S5	主な疾患(代謝・内分泌疾患)	1:該当あり 0:該当なし	0.151	0.034	0.672
NO81	同じことを何度も聞く	1:ある 0:ない	1.997	1.284	3.106
NO84	吸引	1:できない 0:できる	0.229	0.053	0.977
NO95	ズボン・パンツの上げ降ろし	1:できない 0:できる	0.584	0.357	0.955
NO99	第三者の援助なしで入浴	1:できない 0:できる	0.530	0.306	0.917

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	627.529	746	0.8412	0.9994
Pearson	693.980	746	0.9303	0.9134

■通所者

- 排泄の際、ズボン・パンツ等の上げ降ろしの両方を自分ですることができる場合は維持改善につながるとの結果になっている。座位保持が機能維持に重要であるためと考えられた。

■通所者（分析対象数：473）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO95	ズボン・パンツの上げ降ろし	1:できない 0:できる	0.313	0.173	0.566
NO103S1	入浴手段(一般浴)	1:該当あり 0:該当なし	1.860	1.224	2.827

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	560.404	470	1.1923	0.0026
Pearson	473.169	470	1.0067	0.4503

(3) 認知機能～オリエンテーションレベルにかかる状態像の変化

認知機能～オリエンテーションレベルにかかる状態像の変化についてのロジスティック回帰分析結果は以下の通りである。

■入所者・通所者合計

- 年齢の上昇は悪化に関係していた。医療区分1で無疾患・健康の場合も悪化に関係していたが、これはオッズの幅もひろく、なんらかの異常であると考えられた。家族のレスパイトが必要、尿失禁がある、食事の直接介助が必要な場合は悪化につながるという結果になっている。
- おもな疾患が骨・筋疾患、精神疾患の場合は維持改善につながるという結果であった。これもデータの範囲が広く、信頼性に問題があるかもしれない。また、5種類以上の薬を飲む場合も維持改善につながるという、これまでの知見と異なった結果が得られた。データの再検討が必要であると考えられた。
- 一方高度な支援を行えば在宅復帰が可能などの場合は維持改善につながるという結果になっている。

■入所者・通所者合計（分析対象数：1,262）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO10	年齢	連続変数	1.037	1.020	1.055
NO14S6	主な疾患(骨・筋疾患)	1:該当あり 0:該当なし	0.618	0.399	0.958
NO14S7	主な疾患(精神疾患(アルツハイマー病及び混合型認知症を含む))	1:該当あり 0:該当なし	0.536	0.357	0.806
NO25	過去一年間変化(5種類以上の薬を飲む)	1:あった 0:ない	0.718	0.545	0.945
NO26S7	医療区分1(無疾患、健康)	1:該当あり 0:該当なし	0.384	0.185	0.798
NO28S2	在宅復帰への調整ニーズ(高度な支援を行えば在宅復帰が可能)	1:該当あり 0:該当なし	1.919	1.284	2.866
NO29	家族のレスパイト	1:必要 0:不要	1.463	1.071	2.000
NO33	医学的ケアのニーズ	1:老健で対応可 0:特別なニーズはない	0.749	0.563	0.996
NO82	尿失禁する	1:ある 0:ない	1.395	1.050	1.854
NO91	食事の直接介助	1:必要 0:不要	1.899	1.197	3.012

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	1354.307	1256	1.0783	0.0271
Pearson	1293.962	1256	1.0302	0.2227

■入所者

- 年齢の上昇や主な疾患が心疾患の場合は悪化要因となっていた。
- 主な疾患が精神疾患、過去1年間に転んだことがない、高度な支援を行えば在宅復帰が可能、リハビリテーションによる機能維持が可能な場合、維持改善につながるという結果となっていた。入所者では安定したデータが得られたと考えられた。

■入所者（分析対象数：772）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO10	年齢	連続変数	1.033	1.010	1.056
NO14S2	主な疾患(心疾患)	1:該当あり 0:該当なし	2.288	1.288	4.064
NO14S7	主な疾患(精神疾患(アルツハイマー病及び混合型認知症を含む))	1:該当あり 0:該当なし	0.585	0.365	0.937
NO21	過去一年間変化に転んだことがある	1:あった 0:ない	0.656	0.465	0.927
NO28S2	在宅復帰への調整ニーズ(高度な支援を行えば在宅復帰が可能)	1:該当あり 0:該当なし	1.778	1.170	2.700
NO32S1	リハビリテーションによる機能維持が可能	1:該当あり 0:該当なし	1.659	1.068	2.576

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	847.482	763	1.1107	0.0177
Pearson	771.207	763	1.0108	0.4104

■通所者

- 主な疾患が代謝・内分泌疾患の場合は維持改善につながるという結果であった。この場合主疾患が糖尿病と考えられるが、今回の調査で用いた2年間という期間では認知機能への影響は少ないと考えられた。
- 過去半年間に転倒経験があるばあい、維持改善につながるという結果であった。オッズ比の範囲が広く、データが安定していないことが示唆された。
- 家族のレスパイトが必要、認知症へのケアは老健内で対応可能、尿失禁があるといった場合、維持改善につながるという結果になっている。いずれもオッズ比の信頼区間が広くっており、回帰モデルとして安定していないことが示唆された。

■通所者（分析対象数：490）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO14S5	主な疾患(代謝・内分泌疾患)	1:該当あり 0:該当なし	5.292	1.318	21.242
NO15	過去半年間変化(転倒)	1:あった 0:ない	1.863	1.153	3.009
NO29	家族のレスパイト	1:必要 0:不要	1.705	1.012	2.874
NO34	認知症へのケア	1:老健で対応可 0:特に必要ない	2.331	1.374	3.955
NO35	栄養ケア	1:老健で対応可 0:特に問題ない	0.203	0.097	0.425
NO72	不適切な泣き笑い	1:ある 0:ない	0.201	0.052	0.777
NO79	日中屋内外をうろつく	1:ある 0:ない	0.303	0.095	0.964
NO82	尿失禁する	1:ある 0:ない	3.590	2.070	6.226

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	459.666	488	0.9419	0.8169
Pearson	520.108	488	1.0658	0.1521

(4) 認知機能～精神活動レベルにかかる状態像の変化

認知機能～精神活動レベルにかかる状態像の変化についてのロジスティック回帰分析結果は以下の通りである。

■入所者・通所者合計

- 女性に比べ男性のほうが悪化につながりやすく、年齢の上昇や認知症高齢者自立度の低下が悪化につながっている。
- また、在宅復帰の阻害要因がある場合や終末期ケアのニーズとして意思表示がない、調査者によるリハビリテーションの予後予測として回復が見込めないタンスの中身を出す、排泄の後始末できない場合なども悪化につながりやすくなっている。

■入所者・通所者合計（分析対象数：1,267）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO9	性別	2:女性 1:男性	0.752	0.567	0.998
NO10	年齢	連続変数	1.025	1.009	1.042
NO13	認知症高齢者自立度	連続変数	1.107	1.018	1.203
NO14S6	主な疾患(骨・筋疾患)	1:該当あり 0:該当なし	0.596	0.392	0.906
NO27	在宅復帰阻害要因の有無	1:ある 0:ない	1.480	1.129	1.940
NO30S0	終末期ケアのニーズ(意思表示なし)	1:該当あり 0:該当なし	1.523	1.125	2.062
NO32S1	リハビリテーションによる機能維持が可能	1:該当あり 0:該当なし	1.577	1.142	2.178
NO38	リハビリの予後予測:回復の見込み	1:見込める 0:見込めない	0.653	0.494	0.863
NO73	興奮して手足を動かす	1:ある 0:ない	0.475	0.293	0.773
NO78	タンスの中身を出す	1:ある 0:ない	2.063	1.103	3.859
NO89	食べこぼし	1:できない 0:できる	0.529	0.322	0.868
NO93	排泄の後始末	1:できない 0:できる	1.324	1.003	1.748

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	1551.593	1249	1.2423	<.0001
Pearson	1266.471	1249	1.014	0.359

■入所者

- 女性に比べ男性のほうが悪化につながりやすく、年齢の上昇や在宅復帰の阻害要因がある場合は悪化要因となっている。

■入所者（分析対象数：770）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO9	性別	2:女性 1:男性	0.604	0.417	0.874
NO10	年齢	連続変数	1.027	1.007	1.047
NO27	在宅復帰阻害要因の有無	1:ある 0:ない	1.954	1.21	3.156
NO73	興奮して手足を動かす	1:ある 0:ない	0.597	0.362	0.985
NO89	食べこぼし	1:できない 0:できる	0.547	0.332	0.902

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	998.514	766	1.3035	<.0001
Pearson	775.152	766	1.0119	0.4013

■通所者

- 認知症高齢者自立度の低下や過去1年間杖を使っている場合、世話を拒否する、排泄の後始末ができない場合などが悪化につながっている。いずれも信頼区間の幅が広く、通所のモデルは不安定であることが示唆された。

■通所者（分析対象数：497）

変数名	変数内容	カテゴリー	オッズ比 点推定値	95%Wald 信頼限界	
				下限	上限
NO13	認知症高齢者自立度	連続変数	1.281	1.096	1.497
NO24	過去一年間変化(杖を使っている)	1:あった 0:ない	1.745	1.131	2.693
NO35	栄養ケア	1:老健で対応可 0:特に問題ない	0.536	0.304	0.945
NO71	世話を拒否	1:ある 0:ない	2.214	1.049	4.675
NO73	興奮して手足を動かす	1:ある 0:ない	0.158	0.044	0.567
NO93	排泄の後始末	1:できない 0:できる	2.094	1.326	3.306

■デビアンズと Pearson の適合度統計量

基準	値	自由度	値/自由度	Pr > ChiSq
デビアンズ	553.811	483	1.1466	0.0140
Pearson	484.251	483	1.0026	0.4754

V. 結果のまとめ

本年度の研究は介護老人保健施設利用者のコホート調査の結果を用いて、1. 介護老人保健施設における診断名リストの作成と、2. ロジスティック回帰分析による、悪化あるいは維持改善につながった群の検討を行った。

1. 介護老人保健施設における診断名リストの作成

介護老人保健施設の診断名リストにおいては、当初 78 の診断群からなる診断リストについて、それぞれの主診断名の頻度および、「その他」に該当していた診断名の頻度を用いて 83 の診断群に修正した。この診断群を用いることにより、以下の効果があると考えられた。

- (ア) 介護老人保健施設における医療の質の向上
- (イ) 介護老人保健施設の診療録の標準化を容易にし、電子診療録、さらにはケアマネジメント、リハビリテーション実施計画書においての情報連携を容易にする。
- (ウ) 介護老人保健施設における診断に関する統計の標準化と、データの質の改善
- (エ) 介護老人保健施設における研究、調査報告、特に臨床研究において標準化とデータの質の改善が期待される。

これらの結果を今後は、全国老人保健施設協会の研修会、全国老人保健施設協会における新しいケアマネジメント方式である R4 システムにおける診断名のリストなどに応用していきたいと考えた。

2. ロジスティック回帰分析による悪化、あるいは維持改善につながった群の検討

これまでさまざまなコホート調査で指摘された結果の再確認をするとともに、および新たな知見が得られたと考えられた。

これまでの研究の再確認。

1. 男性よりも女性が維持傾向にあることはこれまでさまざまな報告にある通りであり、これが女性の入所者の増加につながっていると考えられる。
2. 過去半年間に転倒の経験がある場合は、悪化リスクにつながっている。転倒の割合は入所で 30%、通所で 36%であり、これまでの他の研究班で行われた調査より若干割合が増えていたことが特徴的であった。

新たな知見としては、以下のものが考えられた。

1. リハビリテーションにおいて、座位保持の重要性が示唆された。たとえば排泄の際、ズボン・パンツ等の上げ降ろしの両方を自分ですることができない場合や安定した浴槽の出入りと洗身ができない場合も悪化につながりやすくなっている。これらは基本動作レベルのうち、座位保持と同等と考えられた。
2. 嚥下しやすいように処理した食べ物を飲み込むことができたり、提供された食べ物を食べこぼしがあってもなんとか食べることができる場合、維持改善につながる結果になっている。嚥下機能の維持が基本動作の維持にも関係していることが示唆された。
3. 介護老人保健施設の利用目的により、利用者の悪化や維持改善に差が出たことは、今後、入所時に利用目的を明確化していくことが重要であると考えられた。
4. 呼吸器疾患や、内分泌疾患が、維持、改善に与えていた。

一方、通所群は、ロジスティック回帰分析のデータが安定せず、今後の再検討が必要であると考えられた。

【目的変数に対し有意差が認められた変数一覧】

■入所者・通所者合計

変数名	変数内容	基本動作	歩行・移動	認知機能～ オリエンテー ションレベル	認知機能～ 精神活動 レベル
NO9	性別	女性（維持）			女性（維持）
NO10	年齢	上昇（悪化）		上昇（悪化）	上昇（悪化）
NO12	障害高齢者自立度		低下（悪化）		
NO13	認知症高齢者自立度	低下（悪化）			低下（悪化）
NO14S3	主な疾患（呼吸器疾患）		該当あり（悪化）		
NO14S6	主な疾患（骨・筋疾患）			該当あり（維持）	該当あり（維持）
NO14S7	主な疾患（精神疾患（アルツハイマー病及び混合型認知症を含む））			該当あり（維持）	
NO15	過去半年間変化（転倒）	あった（悪化）			
NO25	過去一年間変化（5種類以上の薬を飲む）			あった（維持）	
NO26S7	医療区分1（無疾患、健康）			該当あり（悪化）	
NO27	在宅復帰障害要因の有無	あり（悪化）			あり（悪化）
NO28S2	在宅復帰への調整ニーズ（高度な支援を行えば在宅復帰が可能）			該当あり（悪化）	
NO29	家族のレスパイト			必要（悪化）	
NO30S0	終末期ケアのニーズ（意思表示なし）				該当あり（悪化）
NO32S0	リハビリテーションによる維持・改善見込みはない	該当なし（維持）			
NO32S1	リハビリテーションによる機能維持が可能				該当あり（悪化）
NO33	医学的ケアのニーズ			特別なニーズなし（維持）	
NO35	栄養ケア	老健で対応可（維持）			
NO38	リハビリの予後予測：回復の見込み	見込めない（悪化）			見込めない（悪化）
NO73	興奮して手足を動かす				ない（維持）
NO78	タンスの中身を出す				ある（悪化）
NO81	同じことを何度も聞く		ある（悪化）		
NO82	尿失禁する			ある（悪化）	
NO86	嚥下（嚥下食）	できる（維持）			
NO89	食べこぼし	できる（維持）	できる（維持）		できる（維持）
NO91	食事の直接介助			必要（悪化）	
NO93	排泄の後始末				できない（悪化）
NO95	ズボン・パンツの上げ降ろし	できない（悪化）	できない（悪化）		
NO98	安定した浴槽の出入りと洗身	できない（悪化）	できない（悪化）		
NO103S3	入浴手段（座っての機械浴）		該当あり（悪化）		

■入所者

変数名	変数内容	基本動作	歩行・移動	認知機能～ オリエンテー ションレベル	認知機能～ 精神活動 レベル
NO9	性別	女性（維持）			女性（維持）
NO10	年齢			上昇（悪化）	上昇（悪化）
NO14S2	主な疾患（心疾患）			該当あり（悪化）	
NO14S5	主な疾患（代謝・内分泌疾患）		該当なし（維持）		
NO14S7	主な疾患（精神疾患（アルツハイマー 病及び混合型認知症を含む））			該当あり（維持）	
NO15	過去半年間変化（転倒）	あった（悪化）		ない（維持）	
NO26S1	医療区分3	該当あり（悪化）			
NO27	在宅復帰阻害要因の有無				あり（悪化）
NO28S2	在宅復帰への調整ニーズ（高度な支援 を行えば在宅復帰が可能）			該当あり（維持）	
NO32S0	リハビリテーションによる維持・改善 見込みはない	該当なし（維持）			
NO32S1	リハビリテーションによる機能維持が 可能			該当あり（維持）	
NO73	興奮して手足を動かす				ない（維持）
NO81	同じことを何度も聞く		ある（悪化）		
NO84	吸引		できない（悪化）		
NO86	嚥下（嚥下食）	できる（維持）			
NO89	食べこぼし				できる（維持）
NO95	ズボン・パンツの上げ降ろし		できない（悪化）		
NO99	第三者の援助なしで入浴		できない（悪化）		

■通所者

変数名	変数内容	基本動作	歩行・移動	認知機能～ オリエンテー ションレベル	認知機能～ 精神活動 レベル
NO9	性別	女性（維持）			
NO12	障害高齢者自立度	低下（悪化）			
NO13	認知症高齢者自立度				低下（悪化）
NO14S5	主な疾患（代謝・内分泌疾患）			該当あり（維持）	
NO14S6	主な疾患（骨・筋疾患）	該当あり（悪化）			
NO15	過去半年間変化（転倒）			あった（維持）	
NO26S2	医療区分2	該当なし（維持）			
NO29	家族のレスパイト	必要（悪化）		必要（維持）	
NO34	認知症へのケア			老健で対応可 （維持）	
NO35	栄養ケア	老健で対応可 （維持）		老健で対応可 （維持）	老健で対応可 （維持）
NO71	世話を拒否				ある（悪化）
NO72	不適切な泣き笑い			ない（悪化）	
NO73	興奮して手足を動かす				ない（維持）
NO79	日中屋内外をうろつく			ない（悪化）	
NO82	尿失禁する			ある（維持）	
NO89	食べこぼし	できる（維持）			
NO93	排泄の後始末				できない（悪化）
NO95	ズボン・パンツの上げ降ろし		できない（悪化）		
NO99	第三者の援助なしで入浴	できない（悪化）			
NO103S1	入浴手段（一般浴）		該当あり（悪化）		
NO95	ズボン・パンツの上げ降ろし		できない（悪化）		
NO99	第三者の援助なしで入浴		できない（悪化）		

資料編

平成22年度「老健利用者の状態像の変化と、医療提供のあり方に関する調査研究事業」(平成22年11月度調査)

はじめに調査実施者の方及び調査の時期、調査対象者(利用者)の方の所在の状況についてご記入ください。

《問1. 調査実施者について》

対象者番号(対比表の番号を記入)

所属施設名				
調査者の氏名				
調査者の職種	1 看護職 2 リハ専門職 3 介護福祉士	職種の経験年数	〔 〕年	
介護支援専門員資格の有無	1 あり 2 なし	要介護認定調査の経験の有無	1 あり 2 なし	

《問2. 調査の時期について》

調査実施日は?	平成22年 月〔 〕日
---------	------------------

《問3. 調査対象者(利用者)の所在の状況》

※利用者の現在の状況について、あてはまる番号一つに○を記入してください。

1.	現在も入所中(期間中、在宅復帰・入院退所を経て再入所を含む)
2.	在宅復帰中でデイケアの利用あり
3.	在宅復帰中でデイケアの利用なし
4.	その他の病院・施設に入院、入所中
5.	死亡
6.	不明

※上記の問3. で「1」または「2」とお答えいただいた方は、つづけて次ページからの設問にお答えください。「3」～「6」とお答えいただいた方は、調査は以上で終了となります。ご協力ありがとうございました。

調査対象者の方の医療度(医療の必要性)についてうかがいます。

「問7. 調査対象者の医療の必要性について、該当するレベル1つに○を付けてください」

「別紙 医療区分表」を参考に、該当する番号に○を付けてください。	＜医療区分＞	
	a 医療区分3	⇒ 該当する疾患・症状の番号 _____
	b 医療区分2	⇒ 該当する疾患・症状の番号 _____
	c 医療区分3、2のいずれにも該当しない	_____

上記の＜医療区分＞で、「c 医療区分3、2のいずれにも該当しない」を選択した場合は、「別紙 医療度表」の該当する数字いずれか1つに○を付けてください。	＜医療度＞	
	d 医療度4	_____
	e 医療度3	_____
	f 医療度2	_____
	g 医療度1	_____
	h 医療度0	_____

調査対象者の方の治療行為にかかる手間のかかり度についてうかがいます。

「問8. 調査対象者の「治療行為にかかる手間のかかり度」について、あてはまる番号すべてに○を記入してください。」

- 1 原因疾患によらず血中酸素濃度測定や酸素投与を要する状態
- 2 喀痰の吸引が頻回に必要な状態
- 3 治療を行うためスタッフがほぼ常時そばにつき添う状態
- 4 清拭やオムツの交換を頻回に要する状態
- 5 体位交換が頻回、複数人数の介助を要する状態
- 6 末梢血管の確保が困難な状態
- 7 介護拒否や突然の暴力が見られる状態
- 8 嚥下困難により食事介助の手間がかかる状態
- 9 拒食・拒薬のある状態
- 10 せん妄状態

調査対象者の方の基礎疾患等の状況についてうかがいます。

(医師、看護師等の医療専門職の方とご相談のうえ、ご記入をお願いします)

《問9. 調査対象者の診断名（3つまで）ご記入下さい。また、別紙の「診断名リスト」から主診断名に該当する番号をご記入ください。なお、診断名が複数の場合、「主診断名」ひとつに○を付けて下さい。》

診断名（最大3つまでご記入下さい）	診断名リストの 該当番号	主診断名 （主な1つに○）
1.		
2.		
3.		

《問10. 調査対象者のその他特記すべき状態について、以下のうち、あてはまるもの全ての番号に○を記入してください。》

1	PTCA（経皮的冠動脈形成術）等心臓手術の既往
2	ペースメーカー装着者
3	気管切開状態
4	透析
5	尿道カテーテル留置や人工膀胱状態
6	経鼻胃管や胃瘻等経管栄養状態
7	HBV キャリア（B型肝炎ウイルス持続感染者）
8	HCV キャリア（C型肝炎ウイルス持続感染者）
9	褥創
10	片麻痺
11	失語
12	片麻痺・失語以外の高次機能障害
13	認知症の周辺症状（BPSD）
14	せん妄

別紙の「ICFレベルアセスメント」イラスト入り資料を参照して、調査対象者の方があてはまるレベル、または該当する数字に○を1つ付けて下さい。

※ 別紙の「ICFレベルアセスメント」イラスト入り資料を参照して、あてはまる選択肢の番号に○を付けてください。

問11 歩行・移動のスケール

	該当するレベル1つに○
(2)基本動作のレベル	1・2・3・4・5
(3-a) 歩行・移動のレベル	1・2・3・4・5

(3-b)移動手段	あてはまる方に○
T字杖の利用	0 なし 1 あり
装具(短下肢装具等)	0 なし 1 あり
歩行器(ウォーカー、シニアカー等)の利用	0 なし 1 あり
しがみつき歩行器の利用(サークル歩行)	0 なし 1 あり
車椅子の利用	0 なし 1 あり
リクライニング式車椅子の利用	0 なし 1 あり
介助者や付き添いの必要	0 なし 1 あり

問12 認知機能のスケール

	該当するレベル1つに○
(4-a) 認知機能～オリエンテーション(見当識)のレベル	1・2・3・4・5
(4-b) 認知機能～コミュニケーションのレベル	1・2・3・4・5
(4-c) 認知機能～精神活動のレベル	1・2・3・4・5

(4-d)周辺症状	あてはまる方に○
A-1 世話を拒否する	0 ない 1 ある
A-2 不適切に泣いたり笑ったりする	0 ない 1 ある
A-3 興奮して手足を動かす	0 ない 1 ある
A-4 理由なく金切り声をあげる	0 ない 1 ある
A-5 衣服や器物を破壊する	0 ない 1 ある
A-6 食物を投げる	0 ない 1 ある
B-1 食べ過ぎる	0 ない 1 ある
B-2 タンスの中身を全部出す	0 ない 1 ある
B-3 日中屋外や屋内をうろつきまわる	0 ない 1 ある
B-4 昼間、寝てばかりいる	0 ない 1 ある
B-5 同じことを何度も聞く	0 ない 1 ある
B-6 不適切な場所での排尿	0 ない 1 ある

問13 食事のスケール

	該当するレベル1つに○
(5-a) 食事～嚥下機能のレベル	1・2・3・4・5
(5-b) 食事～食事動作および食事介助のレベル	1・2・3・4・5

	あてはまるものに○
(5-c) 食事の形態・性状	1 常食 2 軟食 3 ソフト食 4 きざみ食 5 ミキサー食 6 ムース・ペースト食 7 その他

問14 排泄のスケール

	該当するレベル1つに○
(6-a) 排泄の動作のレベル	1・2・3・4・5

(6-b) 補助具・器具の使用状況と、尿意	あてはまる方に○	
ポータブルトイレの利用	0 なし	1 あり
尿カテーテルの使用	0 なし	1 あり
人工肛門の使用	0 なし	1 あり
おむつの使用	0 なし	1 あり
尿意を意識することができるか	0 出来ない	1 出来る
便意を意識することができるか	0 出来ない	1 出来る

問15 入浴のスケール

	該当するレベル1つに○
(7-a) 入浴動作のレベル	1・2・3・4・5
(7-b) 入浴手段	1 一般浴 2 介助浴 3 座っての機械浴 4 臥位での機械浴(特殊浴)

問16 整容のスケール

	該当するレベル1つに○
(8-a) 整容～口腔ケアのレベル	1・2・3・4・5
(8-b) 整容～整容のレベル	1・2・3・4・5
(8-c) 整容～衣服の着脱のレベル	1・2・3・4・5

調査対象者の方の「参加の状況」についてうかがいます。

《問17 過去1ヶ月間程度(9月～10月)における調査対象者の参加の状況について、あてはまる方に○を付けてください。》

※設問内に特に対象期間が示されているものは設問の期間であてはまる方に○を付けてください。

余 暇	入所施設や介護事業者が主催する映画やコンサート (スポーツや美術館など類似のレジャーも可)に参加 しましたか	0 行っていない	1 行っている
	入所施設や介護事業者以外が主催する映画やコンサ ート(スポーツや美術館など類似のレジャーも可)に 参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	公園や野外活動場に行きましたか	0 行っていない	1 行っている
	テレビをみましたか	0 行っていない	1 行っている
	ラジオを聴きましたか	0 行っていない	1 行っている
	新聞をよみましたか	0 行っていない	1 行っている
	旅行にいきましたか	0 行っていない	1 行っている
	趣味活動を自分から行いましたか	0 行っていない	1 行っている
	集団でおこなう体操へ参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	個人で体操を行いましたか	0 行っていない	1 行っている
社 会 活 動	施設内で買い物をしましたか	0 行っていない	1 行っている
	施設外で買い物をしましたか	0 行っていない	1 行っている
	ボランティア等の社会活動を行いましたか	0 行っていない	1 行っている
	地区会、地域センター、公民館活動に参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	宗教活動(墓参り・法事以外)への参加をしましたか	0 行っていない	1 行っている
	(この1年間)墓参り・法事に参加しましたか	0 行っていない	1 行っている
	(この1年間)結婚式その他の式典に参加されましたか	0 行っていない	1 行っている
(この1年間)公職選挙法における投票に参加しまし たか(国会議員、県議、市議、首長選挙など)	0 行っていない	1 行っている	
職業や家事など何か決まった役割がありますか。	0 行っていない	1 行っている	
交 流	近所づきあいをしましたか	0 行っていない	1 行っている
	友人や親族の家への訪問を行いましたか	0 行っていない	1 行っている
	友人や親族と外出しましたか	0 行っていない	1 行っている
	親族による訪問をうけましたか	0 行っていない	1 行っている
	友人による訪問をうけましたか	0 行っていない	1 行っている
	家族・親族と会話をしましたか	0 行っていない	1 行っている
	友人と会話をしましたか	0 行っていない	1 行っている
	手紙を書きましたか	0 行っていない	1 行っている
電話をしましたか	0 行っていない	1 行っている	

～調査項目は以上です。ご協力ありがとうございました。～

別紙 参照資料①

別紙 医療区分表

対象者個別調査票の「問7」欄の該当する医療区分に○をご記入下さい。

《調査対象者は、現在、以下に示す「医療区分2、3」のいずれかかの状態に該当しますか?》 該当する場合は、下表の該当する番号を問7の医療区分の欄にご記入ください。

医療区分2・3の状態

医療区分	難病等	医療的管理・処置等	点滴等	呼吸	感染症・創傷	リハビリテーション	精神	その他
医療区分3	10 スモン 11 注1を参照	12 医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施している状態 15 ドレーン法又は褥瘡若しくは褥瘡の洗浄を実施している状態	13 中心静脈栄養を実施している状態 14 24時間持続して点滴を実施している状態	16 酸素療法を実施している状態 17 酸素療法を実施している状態 18 人工呼吸器を使用している状態	19 気管切開又は気管内挿管が行われており、かつ、発熱を生ずる状態 20 感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状態	21 肺病等によりリハビリテーションが必要となる状態	22 せん妄に対する治療を実施している状態	23 頰回の血糖検査を実施している状態
医療区分2	20 多発性硬化症 21 筋萎縮性側索硬化症 22 筋萎縮性側索硬化症 23 その他の難病(スモン及び20~22までを除く。) 27 注2を参照	31 褥創に対する治療を実施している状態(皮膚腐爛の部分的喪失が認められる場合は褥創が2力所以上に認められる場合に限る。) 32 末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療を実施している状態	4 脱水に対する治療を実施している状態、かつ発熱を生ずる状態 6 頰回の嘔吐に対する治療を実施している状態、かつ発熱を生ずる状態	35 1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態 36 気管切開又は気管内挿管が行われている状態(発熱を生ずる状態を除く。)	8 肺炎に対する治療を実施している状態 9 発熱又は嘔吐を生ずる状態	24 腎臓損傷(腎臓機能)を原因とする状態が四肢すべてに認められる場合に限る。)	33 うつ症状に対する治療を実施している状態	24 肺炎に対する治療を実施している状態 25 慢性閉塞性肺疾患(70歳以上の高齢者に該当する場合に限る。)
	28 基本診療料の施設基準等の別表第五の三の三の患者			25 慢性閉塞性肺疾患(70歳以上の高齢者に該当する場合に限る。)	37 創傷(手術創や感染創を含む)、入皮腐潰瘍又は下腿若しくは足部の褥瘡、腫瘍の感染症に対する治療を実施している状態		34 他者に対する暴行が毎日認められる状態	29 悪性腫瘍(医療用医薬品の薬剤投与による疼痛コントロールが必要場合に限る。)
								26 人工腎臓、持続濾過式血液濾過、腹膜濾過又は血漿交換療法を実施している状態

上記以外の場合、「別紙 医療度表」を参考に、問7の該当する医療度レベル一つに○を付けてください。

注1
ア 平成20年3月31日において現に障害者施設等入院基本料を算定する病棟に入院している患者のうち、重度の肢体不自由(者)、脊髄損傷等の重度障害者、筋ジストロフィー患者、難病患者等であって別表第五の三の患者
イ 「基本診療料の施設基準等」の別表第十二に掲げる神経難病等の患者であって、平成18年6月30日において現に特殊疾患療養病棟入院料1を算定する病室に入院している患者(仮性球麻痺の患者以外の患者に限る。)
ウ 平成20年3月31日において現に特殊疾患療養病棟入院料2を算定する病室に入院している患者のうち、脊髄損傷等の重度障害者、筋ジストロフィー患者、難病患者等
エ 平成20年3月31日において現に特殊疾患療養病棟入院料1を算定する病棟に入院している患者のうち、脊髄損傷等の重度障害者、筋ジストロフィー患者、難病患者等

注2
ア 平成20年3月31日において現に障害者施設等入院基本料を算定する病棟に入院している患者のうち、重度の肢体不自由(者)、脊髄損傷等の重度障害者、筋ジストロフィー患者、難病患者等であって別表第五の三の患者以外の患者
イ 「基本診療料の施設基準等」の別表第十二に掲げる神経難病等の患者であって、平成18年6月30日において現に特殊疾患療養病棟入院料2を算定する病室に入院している患者(仮性球麻痺の患者以外の患者を除く。)
ウ 平成20年3月31日において現に特殊疾患療養病棟入院料2を算定する病棟に入院している患者のうち、重度の障害者(脊髄損傷等の重度障害者、筋ジストロフィー患者及び難病患者等を除く。)(別表第五の二の患者は除く。)

医療区分表の参考資料

別表第五の二 療養病棟入院基本料の入院基本料A、入院基本料B及び入院基本料C並びに有床診療所療養病床入院基本料の入院基本料Aに係る疾患及び状態

一 対象疾患の名称

スモン

二 対象となる状態

医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施している状態
中心静脈栄養を実施している状態
24時間持続して点滴を実施している状態
人工呼吸器を使用している状態
ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態
気管切開又は気管内挿管が行われており、かつ、発熱を伴う状態
酸素療法を実施している状態
感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状態

別表第五の三 療養病棟入院基本料の入院基本料D、入院基本料E及び入院基本料F並びに有床診療所療養病床入院基本料の入院基本料B及び入院基本料Cに係る疾患及び状態等

一 対象疾患の名称

筋ジストロフィー症

多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病（ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ3以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度の状態に限る。））その他の難病（スモンを除く。）

脊髄損傷（頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる場合に限る。）

慢性閉塞性肺疾患（ヒュー・ジョーンズの分類がⅤ度の状態に該当する場合に限る。）

悪性腫瘍（医療用麻薬等の薬剤投与による疼痛コントロールが必要な場合に限る。）

二 対象となる状態

肺炎に対する治療を実施している状態

尿路感染症に対する治療を実施している状態

傷病等によるリハビリテーションが必要な状態（原因となる傷病等の発症後、30日以内の場合で、実際にリハビリテーションを行っている場合に限る。）

脱水に対する治療を実施している状態かつ発熱を伴う状態

消化管等の体内からの出血が反復継続している状態

頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態かつ発熱を伴う状態

褥瘡に対する治療を実施している状態（皮膚層の部分的喪失が認められる場合又は褥瘡が2箇所以上に認められる場合に限る。）

末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療を実施している状態

せん妄に対する治療を実施している状態

うつ症状に対する治療を実施している状態

他者に対する暴行が毎日認められる状態

人工腎臓、持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法を実施している状態

経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われており、かつ、発熱又は嘔吐を伴う状態

1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態

気管切開又は気管内挿管が行われている状態（発熱を伴う状態を除く。）

頻回の血糖検査を実施している状態

創傷（手術創や感染創を含む。）、皮膚潰瘍又は下腿若しくは足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療を実施している状態

三 対象となる患者

次に掲げる保険医療機関の療養病棟であって、平成18年6月30日において現に特殊疾患療養病棟入院料又は特殊疾患入院施設管理加算を算定するものに入院している患者（重度の肢体不自由児（者）又は知的障害者に限る。）

(1) 児童福祉法第43条の3に規定する肢体不自由児施設

(2) 児童福祉法第43条の4に規定する重症心身障害児施設

(3) 児童福祉法第7条第6項及び身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第18条第2項に規定する国立高度専門医療センター及び独立行政法人国立病院機構の設置する医療機関であって厚生労働大臣の指定するもの

別表第十二

脊髄損傷

筋ジストロフィー症

多発性硬化症

重症筋無力症

スモン

筋萎縮性側索硬化症

脊髄小脳変性症

パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病(ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ3以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度の状態に限る。))

ハンチントン病

多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症、シャイ・ドレーガー症候群)

プリオン病(クロイツフェルト・ヤコブ病、ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病、致死性家族性不眠症)

亜急性硬化性全脳炎

仮性球麻痺

脳性麻痺

その他の難病(特定疾患)

1. ベーチェット病
2. 多発性硬化症
3. 重症筋無力症
4. 全身性エリテマトーデス
5. スモン
6. 再生不良性貧血
7. サルコイドーシス
8. 筋萎縮性側索硬化症
9. 強皮症/皮膚筋炎及び多発性筋炎
10. 特発性血小板減少性紫斑病
11. 結節性動脈周囲炎
12. 潰瘍性大腸炎
13. 大動脈炎症候群(高安動脈炎)
14. ビュルガー病
15. 天疱瘡
16. 脊髄小脳変性症
17. クロウン病
18. 難治性肝炎のうち劇症肝炎
19. 悪性関節リウマチ
20. パーキンソン病関連疾患 (1)進行性核上性麻痺 (2)大脳皮質基底核変性症 (3)パーキンソン病
21. アミロイドーシス
22. 後縦靭帯骨化症
23. ハンチントン病
24. モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)
25. ウェゲナー肉芽腫症
26. 特発性拡張型(うっ血型)心筋症
27. 多系統萎縮症 (1)線条体黒質変性症 (2)オリーブ橋小脳萎縮症 (3)シャイ・ドレーガー症候群
28. 表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)
29. 膿疱性乾癬
30. 広範脊柱管狭窄症
31. 原発性胆汁性肝硬変
32. 重症急性膵炎
33. 特発性大腿骨頭壊死症
34. 混合性結合組織病
35. 原発性免疫不全症候群
36. 特発性間質性肺炎
37. 網膜色素変性症
38. プリオン病
39. 肺動脈性肺高血圧症
40. 神経線維腫症
41. 亜急性硬化性全脳炎
42. バット・キアリ(Budd-Chiari)症候群
43. 慢性血栓性肺高血圧症
44. ラインゾーム病
45. 副腎白質ジストロフィー
46. 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)
47. 脊髄性筋萎縮症
48. 球脊髄性筋萎縮症
49. 慢性炎症性脱髄性多発神経炎
50. 肥大型心筋症
51. 拘束型心筋症
52. ミトコンドリア病
53. リンパ脈管筋腫症(LAM)
54. 重症多形滲出性紅斑(急性期)
55. 黄色靭帯骨化症
56. 間脳下垂体機能障害 (1)プロラクチン(PRL)分泌異常症 (2)ゴナドトロピン分泌異常症 (3)ADH分泌異常症 (4)下垂体性TSH分泌異常症 (5)クッシング病 (6)先端巨大症 (7)下垂体機能低下症

別紙 医療度表

≪「別紙 医療区分表」の医療区分2・3にあてはまらない場合、調査対象者の医療度は、以下の「4」「3」「2」「1」「0」の医療度のどれに該当しますか。該当する医療度の番号を調査票「問7」の該当欄にご記入ください≫

あてはまる「医療度」いずれか1つを問9の医療度の欄にご記入ください。

医療度	治療環境等	状態・実施状況	備考
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入院等での注意深い管理が必要 ・高額な治療費 ・生命の危機や特定疾患 <p style="text-align: center;">(医療区分1の重度側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前ページまでの医療区分2・3でなく、「下記3」でもない状態 	<p>原則、毎日かつ日常的な医療管理状態</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検温、血圧等の「バイタル測定」は、原則1日3回以上 2) 8回以上ではないが、ほぼ日常的に喀痰吸引が実施されている。 3) 1日合計1000円以上の薬剤および日常的な処置が実施されている。 4) <u>近い将来の「死亡(再発等による)」が見込まれるが</u>、医療区分2・3には合致しない状態 5) <u>難病(特定疾患)と認定されているが</u>、医療区分2・3には合致しない状態 <p style="text-align: center;"><u>上記の1)～5)のいずれかに合致した状態</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の条件に該当しても、前ページまでの医療区分2、3の状況であれば、医療区分2・3とする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な医療管理レベル ・ほぼ入院等が必要 <p style="text-align: center;">(医療区分1の軽度側)</p>	<p>原則、毎日かつ日常的な医療管理状態で、病態による日常生活への影響がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検温、血圧等の「バイタル測定」は1日3回未満の安定した病態かつ 2) 原則1日合計1000円未満の薬剤および日常的な処置が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・突発的な場合を除き、日常的な“<u>喀痰吸引</u>”は実施されていない。 ・訪問診療・訪問看護等が充実していれば在宅でも可能。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・入院あるいは外来レベル <p style="text-align: center;">(多少変調をきたした外来診療レベル)</p>	<p>生活習慣病や後遺症等が基礎にあり、<u>変調等により診療や観察の回数が一時的に増加。</u></p> <p>病態(病気)による日常生活への影響は大きくはない。(身の回り、排泄等に変化は生じていない。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「下記1」ではないが、「上記3」でもない状態 ・リハビリテーションや創傷処置等の「繰り返しの受診」を除く。 ・一時的に薬剤費は「1日合計1,000円以上」となる場合を含む。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「安定した外来診療」レベル 	<p>生活習慣病や後遺症等により、月に1-2回の“主に内科的”診療を受けることが適切(必要)な状態。</p> <p>病態による明らかな日常生活への影響は認められず、病態の変動も少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションや創傷処置等の「繰り返しの受診」を除く。
0	—	いわゆる「無疾患」、「健康」状態	

別紙 診断名リスト

対象者個別調査票の「問9」で記入した診断名に合致する番号を調査票の該当欄ご記入下さい。

ICDコード分類	番号	診断名
循環器系の疾患	1	脳梗塞
	2	脳出血
	3	多発性脳梗塞
	4	その他の脳血管疾患
	5	高血圧症(認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)
	6	慢性心不全
	7	心筋梗塞
	8	狭心症
	9	不整脈
	10	その他の心疾患
	11	閉塞性動脈硬化症
	12	その他の中枢または末梢血管の疾患
精神及び行動の障害	13	アルツハイマー型認知症
	14	脳血管性認知症
	15	レビー小体型認知症
	16	下記以外の認知症 (脳血管性・アルツハイマー型・混合型・レビー小体型・ピック病)
	17	前頭・側頭葉型認知症(ピック病等)
	18	混合型認知症
	19	まだ確定診断のついていない認知症
	20	うつ病
	21	その他の精神疾患(統合失調症を含む)
神経系の疾患	22	パーキンソン病
	23	パーキンソン病以外の脊髄小脳変性疾患
	24	その他の中枢神経疾患
	25	末梢神経疾患
内分泌, 栄養及び代謝疾患	26	糖尿病(認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)
	27	栄養障害
	28	肥満
	29	その他の代謝・内分泌疾患
筋骨格系及び結合組織の疾患	30	脊髄損傷
	31	脊柱管狭窄症
	32	変形性脊椎症
	33	下肢の変形性関節症(股関節・膝関節)
	34	上肢の変形性関節症(肩関節・肘関節)
	35	大腿骨の骨折(手術を行った)
	36	大腿骨以外の骨折(手術を行った)
	37	骨折(保存的治療のみ)
	38	骨粗しょう症
	39	その他の骨・脊椎疾患
	40	関節リウマチ
	41	関節リウマチ以外の全身性結合組織障害
	42	筋、軟部組織の障害

ICDコード分類	番号	診断名
呼吸器系の疾患	43	気管支喘息
	44	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患
	45	誤嚥性・吸引性(不顕性)肺炎などの慢性呼吸器感染症
	46	急性呼吸器感染症
	47	その他肺および胸膜など呼吸器の疾患
腎尿路生殖器系の疾患	48	腎不全(慢性・急性を含む)
	49	尿路結石症など尿路の疾患
	50	尿路感染症(膀胱炎など)
	51	女性生殖器・骨盤臓器の疾患
	52	前立腺肥大症などの男性生殖器の疾患
	53	乳房の障害
消化器系の疾患	54	口腔・唾液腺・顎の疾患
	55	胃・食道疾患
	56	小腸・大腸の疾患
	57	腹膜の疾患
	58	肝胆膵の疾患
	59	ヘルニア
	60	肛門の疾患
	61	その他の消化器の疾患
新生物	62	悪性新生物
	63	良性新生物
	64	その他特定されない新生物
眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患	65	緑内障・白内障などの眼およびその付属器の疾患
	66	耳および乳様突起の疾患
皮膚及び皮下組織の疾患	67	疥癬・蜂窩織炎・白癬等感染症
	68	水疱症(天疱瘡・類天疱瘡等)
	69	アレルギー性皮膚疾患
	70	褥創
	71	皮膚の切創などの外傷
	72	その他の皮膚疾患
感染症及び寄生虫症	73	感染症
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	74	貧血
	75	貧血以外の血液・免疫および凝固系の疾患
周産期に発生した病態	76	周産器や小児期の疾患の後遺症
先天奇形, 変形及び染色体異常	77	先天奇形・変形および染色体異常
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	78	損傷, 中毒及びその他の外因の影響

別紙 参照資料②

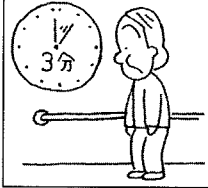
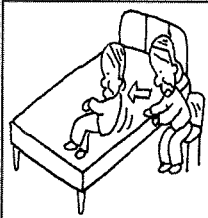
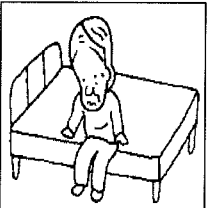
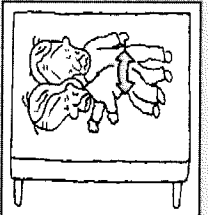

ICFレベルアセスメント

調査票「問11～16」の該当するレベルの番号に○を付けて下さい。

「状態の判定」は基本的に上から下に難易度レベル(高→低)を設定しています。

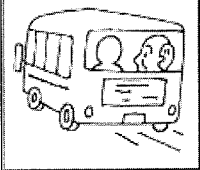
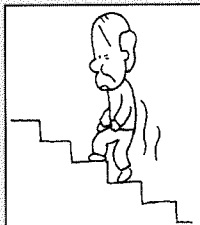
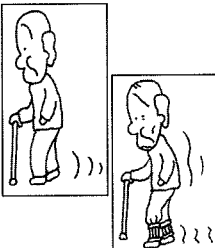
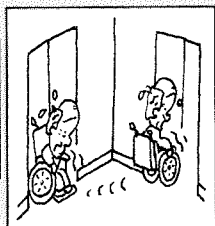
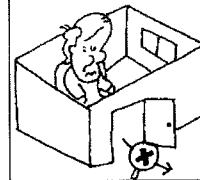
(2) 基本動作のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問11(2)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	両足での立位の保持を行なっている	
立位の保持	つかまらずに一定の時間立位を保つこと	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	立位の保持は行なっていないが、座位での乗り移りは行なっている。	
座位での乗り移り	車椅子などからベッドへ移動する時のように、ある面に座った状態から、同等あるいは異なる高さの他の座面へと移動すること	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	座位での乗り移りは行なっていないが、座位(端座位)の保持は行なっている	
座位(端座位)の保持	ベッド等に、背もたれもなく“つかまらない”で、安定して座っていること(端座位)	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	座位(端座位)の保持は行なっていないが、寝返りは行なっている	
寝返り	寝返りをする事(つかまらず)・つかまらずに関わらず)	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	寝返りは行なっていない	

(3-a) 歩行・移動のレベル

最も状態が近いレベルの番号1つを選んで「問11(3-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
外出状況 公共交通機関（バス・JR・飛行機等）を利用して外出する（杖等の補助具の使用の有無は問わない）	行なっている	5	公共交通機関等を利用した外出を行なっている	
	行っていない			
昇り降り 階段を5段以上“手すりに頼らず昇り降りする”こと	行なっている	4	公共交通機関等を利用した外出は行なっていないが、手すりに頼らないで安定した階段の昇り降りを行なっている	
	行っていない			
安定した歩行 安定した歩行をすること（杖と装具の双方を用いてもかまわない）	行なっている	3	手すりに頼らない安定した階段の昇り降りは行なっていないが、平らな場所での安定した歩行は行なっている	
	行っていない			
施設内での移動 施設内で居室から別の部屋へと移動すること（車椅子など移動手段は問わない）	行なっている	2	安定した歩行は行なっていないが、 は行なっている	
	行っていない	1	施設内の移動を行なっていない	



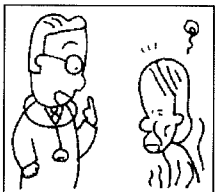


(3-b) 移動手段

(それぞれの項目についていずれかあてはまる方を選び「問11(3-b)」欄の該当番号に○)

	なし	あり
T字杖の利用	○	1
装具（短下肢装具等）	○	1
歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用	○	1
しがみつき歩行器の利用（サークル歩行）	○	1
車椅子の利用	○	1
リクライニング式車椅子の利用	○	1
介助者や付き添いの必要	○	1

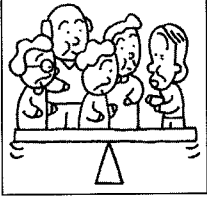
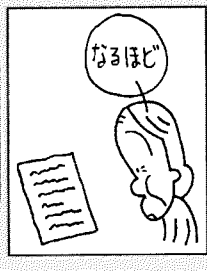
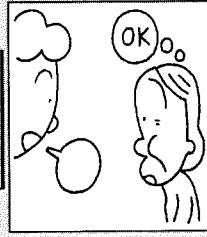
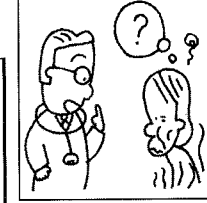
(4-a) 認知機能～オリエンテーション(見当識)のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問12(4-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	年月日がわかる	
年月日	年月日がわかるか (±1日の誤差)	わかる	↑	
		わからない	↓	
		4	年月日はわからないが、現在いる場所の種類はわかる	
場所の名称	現在いる場所の、種類がわかるか	わかる	↑	
		わからない	↓	
		3	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰かわかる	
他者に関する見当識	その場にいる人がだれだかわかるか (例えば家族か、職員か、が判れば可)	わかる	↑	
		わからない	↓	
		2	その場にいる人が誰だかわからないが、自分の名前はわかる	
自分の名前	自分の名前がわかるか	わかる	↑	
		わからない	↓	
		1	自分の名前がわからない	

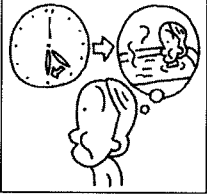
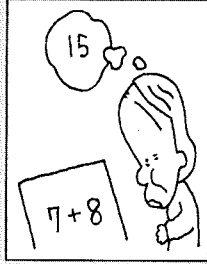

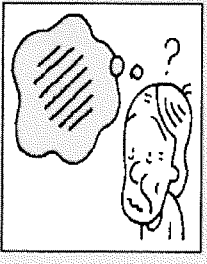
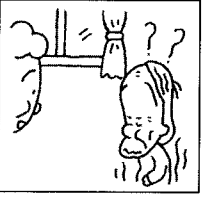
(4-b) 認知機能～コミュニケーションのレベル

最も状態が近いレベルの番号1つを選んで「問12(4-b)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	複雑な人間関係を保っている	
複雑な人間関係の保持	様々な状況で、他者を理解し、他者が不快にならないように感情や衝動を抑え、常識に基づいて人間関係を保とうとすること (例) 普通の人間関係	保っている	↑	
		保っていない	↓	
		4	複雑な人間関係は保っていないが、書き言葉は理解している	
書き言葉の受容	書き言葉のメッセージを読みとり、理解している。	理解している	↑	
		理解していない	↓	
		3	書き言葉は理解していないが日常会話は行なっている	
日常会話	1対1で“違和感のない(適切でつじつまのあった)”対話や意見交換をすること (例) 日常の当たり前の会話；友人関係、日常生活、季節等	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	日常会話は行なっていないが、話し言葉は理解している	
話し言葉の理解	スタッフや家族の話し言葉(音声言語)を理解すること (例) 例示の理解	理解している	↑	
		理解していない	↓	
		1	話し言葉の理解はできない	

(4-c) 認知機能～精神活動のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問12(4-c)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	時間管理ができる	
時間管理	現在の時刻がわかり、かつ一時間後に何をおこなうか理解し、普段から自分で管理している。	できる	↑	
		できない	↓	
		4	時間管理はできないが、簡単な算術計算はできる	
簡単な算術計算	7+8、6+5などの一桁同士の単純な加算ができるか。 ※おおむね7割程度正解すれば、できると判断する。	できる	↑	
		できない	↓	
		3	簡単な算術計算はできないが、記憶の再生はできる	
長期記憶	過去の自伝的な記憶について正しく、再生することができるか	できる	↑	
		できない	↓	
		2	記憶の再生はできないが、意識混濁はない	
意識状態	調査前24時間以内の起きていた時間帯に意識の混濁があったか	なかった	↑	
		あった	↓	
		1	意識の混濁があった	

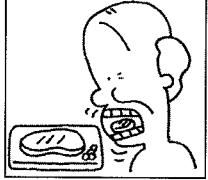

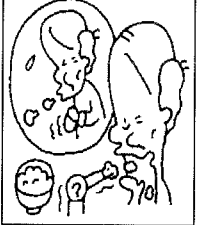
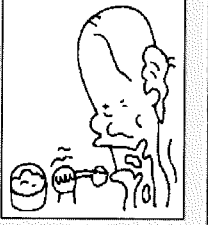
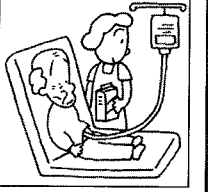
(4-d) 周辺症状

(それぞれの項目についていずれかあてはまる方を選び調査票「問12(4-d)」欄
の該当番号に○)

		なし	あり
A群	世話を拒否する	0	1
	不適切に泣いたり笑ったりする	0	1
	興奮して手足を動かす	0	1
	理由なく金切り声をあげる	0	1
	衣服や器物を破壊する	0	1
	食物を投げる	0	1
B群	食べ過ぎる	0	1
	タンスの中身を全部出す	0	1
	日中屋外や屋内をうろつきまわる	0	1
	昼間、寝てばかりいる	0	1
	同じことを何度も聞く	0	1
	不適切な場所での排尿	0	1


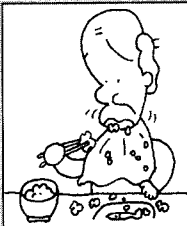


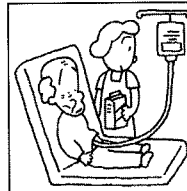
(5-a) 食事～嚥下機能のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問13(5-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	肉などを含む普通の食事を、嚥んで食べることを行なっている	
咬断 (固いもの)	肉などを含む普通の食事を嚥んで食べること	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	肉などを含む普通の食事を嚥んで食べることは行なっていないが、ストローなどでむせずに飲むことは行なっている。	
吸引	ストロー・吸い飲み等を使用して、水分・流動物をむせずに口腔内に吸引すること	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	むせずに吸引することは行なっていないが、固形物の嚥下は行なっている	
嚥下 (固形物)	嚥んだ(口内でつぶした)あるいは柔らかくした食べ物(普通食、粥食、軟食等)を、ノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	固形物の嚥下は行なっていないが、嚥下食の嚥下は行なっている	
嚥下 (嚥下食)	嚥下をしやすくするように処理した食べ物(ペースト食やゼリー食)をノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	嚥下食の嚥下を行なっていない(食べ物の嚥下を行なっていない)	

(5-b) 食事～食事動作および食事介助のレベル

最も状態が近いレベルの番号1つを選んで「問13(5-b)」欄の該当番号に○


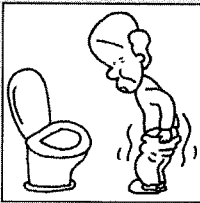
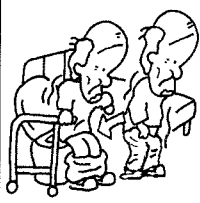

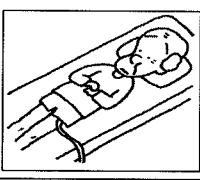
		レベル	状態	状態のイメージ
		5	箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行なっている	
食べること	提供された食べ物を、箸やフォーク等を使って、食べこぼしなく上手に食べることに	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	箸やフォークを使って上手に食べることは行なっていないが、食べこぼししながらも、何とか自分で食べることを行なっている。	
食べこぼし	提供された食べ物を、“食べこぼしはあるが”、何とか自分で食べることに	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	自分で食べることを行なっていないが、食事の際に特別なセッティングをすれば自分で食べることを行なっている	
食事の際の特別なセッティング	姿勢や食べ物の位置の調整、摂食関連補助具の準備が必要である	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	食事の際に特別なセッティングをしても自分で食べることを行なっていないが、直接的な介助があれば食べることを行なっている	
食事の直接介助	食事の際に直接的な介助（食べさせる）が必要である（食事途中からの介助を含む）	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	直接的な介助をしても食べることを行なっていない（食べることを行なっていない）	

(5-c) 食事の形態・性状（あてはまるものを選び調査票「問13(5-c)」欄の該当番号に○）

- | | | | |
|----------|--------------|---------|---------|
| 1) 常食 | 2) 軟食 | 3) ソフト食 | 4) きざみ食 |
| 5) ミキサー食 | 6) ムース・ペースト食 | 7) その他 | |

(6-a) 排泄の動作のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問14(6-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	排泄の後始末を行なっている	
排泄の後始末	排泄の後に種々の後始末をすること ※排泄後に拭く、水洗を流す、汚染した便器や周囲を拭く、ポータブルトイレの処理、尿器の処理等を含む	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	排泄の後始末は行なっていないが、スポン・パンツの上げ下ろしは行なっている	
スポンやパンツの上げ下ろし	排泄の際、スポン・パンツ等の上げ降ろしを自分ですること	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	スポン・パンツの上げ下ろしは行なっていないが、洋式便器への移乗は行なっている	
洋式便器への移乗	洋式便器への移乗と、洋式便器からの移乗	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	洋式トイレの移乗が自分で行えないため、介助が必要、または着段から床上で排泄を行なっている。	
床上での排泄	トイレへの移乗が行えないため、床上で排泄を行なっている。	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	尿閉(膀胱痛を含む)や医療的な身体管理のために膀胱等へのカテーテルなどを使用している	




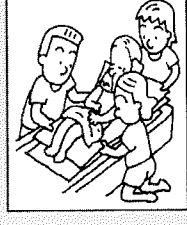
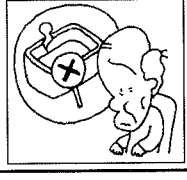
(6-b) 補助具・器具の使用状況と、尿意

(それぞれの項目についていずれかあてはまる方を選び調査票「問14(6-b)」欄の該当番号に○)

	なし/出来ない	あり/出来る
ポータブルトイレの使用	0	1
尿カテーテルの利用	0	1
人工肛門の使用	0	1
おむつの使用	0	1
尿意を意識することができるか	0	1
便意を意識することができるか	0	1

(7-a) 入浴動作のレベル

最も状態が近いレベルの番号1つを選んで「問15(7-a)」欄の該当番号に○


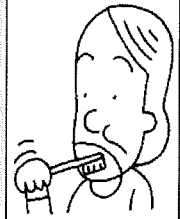



	レベル	状態	状態のイメージ
	5	安定した浴槽の出入りと洗身を行なっている	
安定した浴槽の出入りと洗身	行なっている	↑	
	行なっていない	↓	
	4	安定した浴槽の出入りと洗身は行なっていないが、第三者の援助なしで入浴を行なっている	
安定した浴槽の出入りと洗身	行なっている	↑	
	行なっていない	↓	
	3	第三者の援助なしで入浴することは行なっていないが、一般浴室での座位保持は行なっている。その他、入浴に必要なさまざまな介助がなされている	
第三者の援助なしで入浴	行なっている	↑	
	行なっていない	↓	
	2	浴室での座位保持を行なっており、一般浴での入浴を行なっていないが、入浴(特浴など)は行なっている	
浴室での座位保持	行なっている	↑	
	行なっていない	↓	
	1	入浴は行なっていない	
入浴の実施	行なっている	↑	
	行なっていない	↓	

(7-b) 入浴手段(あてはまるものを選び調査票「問15(7-b)」欄の該当番号に○)

- | | | |
|----------------|-------|-----------|
| 1 一般浴 | 2 介助浴 | 3 座っての機械浴 |
| 4 臥位での機械浴(特殊浴) | | |



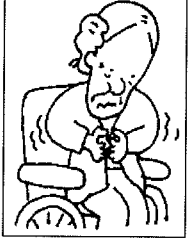
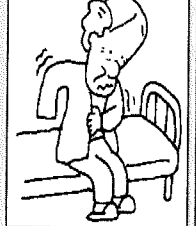

(8-a) 整容～口腔ケアのレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問16(8-a)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	義歯の手入れなどの口腔ケアを自分で行なっている	
口腔ケア	口唇の乾燥を防いだり、義歯の手入れなど、口腔ケアについては自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	義歯の手入れなどの口腔ケアは自分で行なっていないが、歯みがきは自分でセッティングして行なっている	
歯みがき	歯磨きを普段から自分でセッティングして行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	自分でセッティングして歯を磨くことは行なっていないが、セッティングをすれば、自分で歯みがきを行なっている	
歯みがきのセッティング	普段から、歯磨きのセッティングをすれば、自分で歯磨きを行う	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	歯みがきのセッティングをしても自分では歯みがきを行なっていないが、「うがい」は自分で行なっている	
うがい	「うがい」だけであれば自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	「うがい」を自分で行なっていない	

(8-c) 整容～衣服の着脱のレベル

最も状態に近いレベルの番号1つを選んで「問16(8-c)」欄の該当番号に○

		レベル	状態	状態のイメージ
		5	衣服を畳んだり整理することは自分で行なっている	
衣類の 整え	衣服を畳んだり整理することは自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		4	衣服を畳んだり整理することを自分で行っていないが、ズボンやパンツの着脱は自分で行なっている	
ズボンやパ ンツの着脱	ズボン・パンツ等の着脱は自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		3	ズボンやパンツの着脱を自分で行っていないが、更衣の際のボタンのかけはずしは自分で行なっている	
ボタンのか けはずし	更衣の際にボタンのかけはずしは自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		2	更衣の際のボタンのかけはずしを自分で行っていないが、上衣の片袖を通すことは自分で行なっている	
上衣の片袖 を通す	上衣の片袖を通すことは自分で行なっている	行なっている	↑	
		行なっていない	↓	
		1	上衣の片袖を通すことを自分で行っていない	

社団法人



全国老人保健施設協会

〒105-0014 東京都港区芝2-1-28 成旺ビル7階
TEL 03-3455-4165 FAX 03-3455-4172